

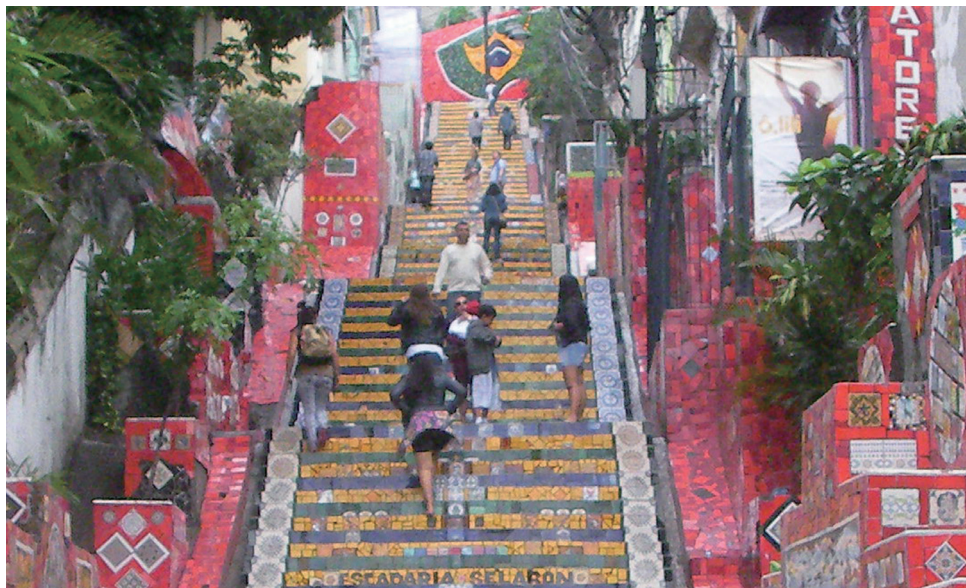
Aichi University

# Lingua



INSTITUTE FOR LANGUAGE EDUCATION AICHI UNIVERSITY

創刊号 December 2012



## Escadaria do Salarón ～リオデジャネイロの階段アート

ブラジルを愛すチリ人芸術家が貧しい地区につながる階段を20年かけてタイルで装飾

## CONTENTS

### ◎特集 私と外国語..... 2～11

国際コミュニケーション学部3年 富川明日香 文学部3年 森康介 経済学部2年 加藤奈央  
経営学部2年 樽林恵子 国際コミュニケーション学部2年 赤松夕希  
国際コミュニケーション学部1年 古田圭 経営学部2年 玄艺华 地域政策学部1年 青山昇平  
国際コミュニケーション学部3年 山田捺津子 国際コミュニケーション学部4年 岡部優一  
文学部2年 山本あおい 現代中国学部3年 大槻和也 国際コミュニケーション学部2年 烏寧奇

### 私たちの留学体験記..... 12～14

国際コミュニケーション学部3年 鍋本彩 国際コミュニケーション学部4年 横井仁美  
文学部3年 堀田泰治 文学部3年 井寺里奈

### 語学教育研究室より..... 15～37

- ・ユーロ危機でもなぜドイツは強いのかーMade in Germany の話ー 文学部 鈴木 康志..... 15
- ・「鶏西」を知っていますか(2)日本語学校見学記 現代中国学部 梅田 康子..... 18
- ・受身表現の“被高速”現象ー中国語の新用法からー 現代中国学部 薛 鳴..... 20
- ・MITでの一年を振り返って 法学部 北尾 泰幸..... 23
- ・明治は遠くなりけり一言葉の旅ー(補1) 経済学部 葛谷 登..... 27
- ・Living in another country: A trip of self-discovery 名古屋語研 Nicholas Bradley ..... 31

・英語e-learning案内..... 37

・2011年度外国語コンテスト講評・入賞作(名古屋校舎)..... 38

# 私と外国語

## 韓国語を学んで

国際コミュニケーション学部3年  
富川明日香

私は、大学から韓国語を学習し始めました。大学からの勉強でも理解しやすく、韓国語は学びやすい言葉であると思う点が多くあります。まず、韓国語は英語のローマ字のように、母音と子音を組み合わせる形であるため、母音と子音を覚えてしまえば、なんとなく書くことができます。また、韓国語は英語と違って、日本語と主語や動詞などの語順が酷似しているところも学びやすい点であると思います。発音も英語の単語などより簡単であると感じます。単語の意味などは勉強して覚えるしかないですが、ハングルを見て発音するのみであれば、比較的簡単にすぐできるため、読み上げれば韓国人に大抵伝わると考えて良いと思います。特に、コンピュータやチョコレートなど、カタカナ言葉などは、発音してみるとそのまま意味と酷似していることが多いため、すぐ意味を理解することができるものもあります。そして、最近はスマートフォンでも韓国語のキーボードを登録すれば、簡単に使用できるため、スマートフォンで辞書なども使えるし、LINEやカカオトークというアプリで、日本はもちろん韓国にいる人とも韓国語でのやりとりが簡単に行えます。このような点から、学習しやすい環境もあるといえると思います。

私は2011韓国フィールドワークに参加した

時に、初めて韓国に行きましたが、日常的な飲食店や買い物をする際の店員さんとの会話も少しでき、現地の大学生との交流の際も簡単な自己紹介などができて、韓国語を勉強していたことで、より楽しむことができたと思いました。その後、旅行で訪れた時もハングルを読むことができることで行動しやすい点などもあり、大学で韓国語を学習できて良かったと思います。

## 僕のドイツ語の勉強の仕方

文学部3年 森 康介

ドイツ文学専攻3年の森です。ここでは外国語を勉強する際、実践していることを紹介していきます。

### 1、電子辞書ではなく紙辞書を使用する。

電子辞書はすぐに調べられるうえ、常に携帯できます。しかし、このメリットに頼りすぎると、自分で覚えようという学習意欲の妨げになります。

一方、紙辞書は重くて持ち運びに不便なうえ、電子辞書に比べ調べるのも時間がかかります。しかし大事なことは「調べる時間を短縮するためには、調べる回数を減らすにはどうすればいいか？」という事を考えることだと思います。では、どうするのか。



まず、「一回調べた単語はマーカーで塗る」ことです。この作業をすることで、2回目以降その単語を引いた時、以前に調べたことが分かります。このとき、「もう2度と調べなくていいように今！この場で覚えよう！」という気持ちを持つことで、記憶力がアップするように思います。

そして、近くにある派生語も見ておきます。似たような形の単語を毎回調べるのは正直嫌になります。だから普段から派生語や周辺の単語をチェックしておけば「前見たことがある！」とすぐ受け入れられるので、後日調べる手間も減少し、効率よく学習できます。

## 2. 単語から直接、事象や行動をイメージする。

日本語で「リンゴを想像しろ」と言われて、「バラ科リンゴ属の落葉高木樹になる実のこと」と考える人はまずいません。ほとんどの日本人はリンゴと言われたら赤くて丸い果実を想像すると思います。では、外国語の場合はどうでしょうか。僕はドイツ語の文章を読むときやドイツ語で会話をする時、日本語を通さず、ドイツ語から直接、場面や物をイメージし、イメージから直接ドイツ語にすることを意識しています。日本語を使わないという意識を持つようにしてから会話能力が上がりました。

共通して言えるのは意識を変えるという事です。覚えようという意識、ネイティブのようという意識。そして、意識という面で、日常の何気ない一言から外国語を使うようにしています。



小さい子がいきなり会話できないのと同様に、習い始め、使い始めは「おいしい！」とか「すごい！」とか、簡単な表現から入り、だん

だんと会話に必要な単語・文法を、上記の1・2を使って覚えるのが僕のやり方です。

## 私のフランス語勉強法

経済学部2年 加藤奈央

外国語を勉強するとき、リスニングに苦労することがよくあります。意味のわからない言葉で、早口にまくし立てられる。その上、日本語にはない音もたくさん出てきたりする。日本語とはやっぱり違うなあと、しみじみ実感します。

ここでは、そんなリスニングについての個人的な勉強法を紹介してみたいと思います。

「リスニングは、一応はただ聴いていればいいだけだから、こんな気楽な勉強はない。」そう思って、大学でフランス語を勉強することになった私は、フランス語のCDを手に入れると、とりあえず暇なときにひたすら漠然と聴いていました。さて、それでフランス語のリスニングの力は付いたのか？

結論から言うと、私はCDを聴いただけでは、フランス語を聴きとれるようにはなれませんでした。もちろん、全くの無駄だったわけではありません。聴きとれる単語も増えるし、なんとなくフランス語に親近感を感じるようになります。この違いは大きくて、肩の力を抜いて、気楽にフランス語が勉強できるようになりました。「ふむふむ、なるほど」と余裕で聴きとる、さらにいえば、頭をフル回転せずにほとんど推測なしで聴きとる、というレベルまでには達しませんでした。フランス語に対する恐怖心とか威圧感のようなものが激減しただけでも、その後のフランス語の学習にすごく役立ったと思います。

1枚のフランス語のCDをほぼ完璧に聴きと

れるようになるには、漠然と聴いているだけでは駄目なようです。ほぼ暗記したその1枚のCDを、なるべくそっくりそのまま復唱するところまでいって、やっとフランス語が随分聴き取れるようになりました。1つ難点といえば、気が遠くなるほどにうんざりする、苦勞するという点だと思います。しかし、それを何とか乗り越え、不思議と簡単に聴きとれるようになるので、苦勞する価値はあると思います。フランス語がある程度聴きとれるようになると、うれしい面白いし、単語やフレーズをいつの間にか覚えていて、仏検の（リスニングの問題だけでなく）筆記のときにも役立ったりします。

リスニングで苦勞することも多いのですが、それと同時に、役に立ったり勉強になったりすることだってたくさんあります。ぜひ、フランス語のリスニングにも力を入れてみてください。

## 中国語を学んで

### ～検定試験に挑戦～

経営学部2年 榎林恵子

私が中国語を学習するにあたって、そのきっかけは一年生の時に必修であった中国語の授業でした。需要が高まる中国語を学習し、検定に取り組み合格することは、四年生での就職活動や仕事関係に役立つのではないかと考え、二年生になってから早速中国語検定4級を申し込みました。

申し込む以上、合格することを第一の目標にしました。初めてこの検定を受験する私にとって、4級というある程度学習が必要な級を受験することは、自分の語学レベルを把握し、出題の流れをつかむということも目的でした。今回は、語学の先生のアドバイス等のおかげもあり一回で合格することができました。合格するのにもかなりの学習時間を費やしたのも事実

です。一年生の春休みに問題集を購入し、コツコツとひたすらに過去の問題を解いていました。学校が始まると授業の課題やレポートに追われ、なかなか検定の勉強に割く時間が取れなかったけれども、問題集一冊を常に持ち歩き、暇な時間さえあれば問題の一つや二つを解いて、知識をつけようと思いました。繰り返し問題を解くことで、自分の苦手な部分を発見し、そして克服していくことで、確実に知識が身についてくるだけではなく、出題傾向も見えてきて、どこを重点的に勉強すれば合格に近づけるかということにも繋がりました。

問題の中には、ピンイン表記や声調の変化に関する問題があります。私にとって苦手な分野でした。生活の中で中国語に触れ合う機会がまだ少ないのもありますが、触れるとしても、日本人の私には聞き取れない声調・発音が多数あるため、リスニングで区別するのが難しかったです。そのほか、中国語は漢字で書かれているため、見れば意味はわかるだろうという考えを持つ人は多くいるでしょう。けれども、中国には簡体字というものがあり、日本で使われる漢字がくずれた風に書かれています。その単語が何を意味しているかを理解するのも大変です。なので、英単語のように単語を暗記することも大切です。どの語学にも通じることですが、単語を多く覚えることで大雑把に内容を理解することができます。

私は中国語の勉強を始めてまだ一年しか経っていません。こうした普通の学習法でも、検定に挑戦することは可能なので、中国語に興味や関心のある方はぜひ自分の力量をためす機会として受験してみたいはいかがでしょうか。



## タイ語履修のきっかけ

国際コミュニケーション学部2年  
赤松夕希

「これは無理だ」

タイ語学習中にそう思ったことが何度もある。それは、新しいタイ文字を教わった時でもあったし、そのタイ文字の確認テスト前でもあった。そんな思いは焦りに変わり、気が付くと、空き時間図書館に籠もりせっせとタイ語を勉強している自分がいた。普段からは想像つかない自身の姿に、ふと手を止めてなんともいえない想いを噛みしめる時がある。—どうして自分はここまでタイ語にのめりこむのだろう？—と。

私が現在学習している外国語は3種類ある。誰もが勉強する英語、縁あって多少は理解しているドイツ語、それにタイ語だ。英語・ドイツ語はともかく、タイ語は学習し始めて7か月弱、個人的に一番理解が困難で一番学習に時間を割いている。

ここで、「3つもどうやって外国語を勉強しているのか？」と思われた方がいるかもしれない。2年次以上生は、必修言語以外の言語を学ぶことができる「選択外国語」制度があり、履修要項によると「第1・第2外国語を含めて最大5つの言語を学ぶことができる」そうだ。履修条件は特になく、強いて書くならば新しい言語を学ぶ根気が必要なぐらいで、先着順で履修許可が下りる。

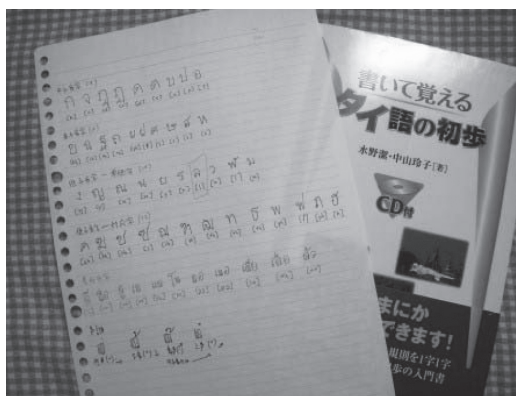
実際「選択外国語」として新たな言語にチャレンジをしている方たちが、どのような想いで日々学習されているか想像はつかないが、少なくとも私自身は、履修登録は軽い気持ちで抽選画面のボタンをクリックしていた。

昨年2月、2か月強に渡る長い春休みを利用

して、国際交流センターが主催するオーストラリア短期語学研修に参加をした。帰国後の3月、研修時にお世話になった国際交流センターのKさんとお会った。その際に「英語以外の言語、例えばタイ語なども学んだほうがいいよ。絶対就活に有利になるだろうから！タイは今成長しているから」とうかがった。それを聞いた私は「タイ語かあー、ちょっと興味あるし、将来就活に役立ちそうだし、必修授業入ってなかったら取ってみるか！」とあっさり受講を決心した。我ながら単純である。しかも、春学期に履修して肌に合わなければ継続受講をやめようとも考えていた。

…と、なんともいえないきっかけで始めたタイ語ではあるが、履修して後悔してはいない。むしろ、弱音を吐きつつも（担当の加納教授に迷惑をかけつつも）新しい言語に挑戦している自分をとても好ましく思っている。

この記事をお読みの皆様、来年から新しい言語に挑戦してみませんか？



## 私の好きなロシア語

国際コミュニケーション学部 1 年  
古田 圭

こんにちは。国際コミュニケーション学部 1 年古田圭です。今日はボクが勉強しているロシア語について簡単に紹介しようと思います。早速ですが簡単に自己紹介をロシア語でします。

**Здравствуйте! Меня зовут КЭИ. Я люблю Россию! Очень приятно!**

(ズドラーストヴィチュェ！ ミニャー ザヴート ケイ。 ヤー リュブリユー ラシーユ。 オー チン プリヤートナ！)

( こんにちは！私は圭と言います。私はロシア が大好き。どうぞよろしく。)

見慣れない文字がいきなり出てきて ( ° д ° ) ポカンってなった方も多いかもしれません。そもそも、なんだこの難しそうなのはと思った方も多いでしょう。でもこの ( ° д ° ) ポカンに使われている дこそロシア語に使われるキリル文字なのです。多くなるので小文字だけ書き出すと、а б в г д е ж з и й к л м н о п р с т у ф х ц ч ш щ ъ ы ь э ю я の 33 文字です。どうです、カッコいい文字でしょ？ボクは最初このカッコいい文字に惹かれました。しかも少し勉強すれば（意味はわからなくても）読めると知り、ボクはよりロシア語に惹きこまれました。これらは文字は表音文字なので読むにあたって必要なちょっとしたルールを学習すれば簡単に読むことができるのです。

ロシア語の中には日本語のカタカナ語として使われているものもあります。イクラ (икра)、コンビナート (комбинат)、ノルマ (норма)、インテリ (интеллигенция)、アジ

ト (агитпункт)、ツンドラ (тундра)、タイガ (тайга)、セイウチ (сивуч) といった単語はすべてロシア語からきている単語です。ところでみなさん икра をイクラって読んでますよね？これはロシア語としては 50 点です、なぜならアクセントがないから。でも英語のように「イクラ」といったふうにアクセントのある母音を高くするものではありません。ロシア語ではアクセントのある位置で音を伸ばします。イクラのアクセントは а の文字にありますから、「イクラー」と読むが正しいです。ちょっとずれますが、名古屋人が「エビフライ」を「エビフリヤー」という（これは俗説らしいが）のになんだか似ている気がします。ネイティブ発音を意識する方はお寿司屋さんでイクラ頼むときに、「イクラーください。」と試みては？

## 私と日本語

経営学部 2 年 <sup>ゲンケイカ</sup> 玄艺华

中国が北朝鮮と国境を接するところで生まれ私は朝鮮語を母語とする中国人です。生まれてすぐ母語を学び、小学校に入ると中国語を習い始めました。小 4 になった時英語の授業が取り入れられました。それから高校を卒業するまで、3 つの言葉は私の生活に不可欠なものでした。しかし、どれをとっても得意とは言えませんでした。

その後、日本留学を決意し、毎日日本語の勉強に没頭しました。「あいうえお」からはじめ最初はひたすら単語を覚えめました。次に文法を習い、簡単な文章を作るようになりました。その後は読解の練習、聴解の問題をやりました。日本語は朝鮮語と似たところが多くて、1 年猛勉強の末、日本語能力試験 2 級を取りました。ここまでの勉強は昔の中国語や英語の勉強と同

じでした。ただ、それ以上に努力できたのは日本に行きたいという目標があったからこそその結果だと思っています。

日本に来て私は大きな壁にぶつかりました。中国の日本語の先生はいつも日本語で授業を行ったし、自分も結構勉強してきたからと思い、日常生活には問題ないだろうと自信満々でした。でも、どうしてなのかあまり聞き取れないし、まったく話せません。マックで店員さんに「店内でお召し上がりでしょうか」と聞かれたときは、意味がわからなくて適当に「はい」と答えました。もし、読解の中でこの文章が出てきたら絶対にわかります。そのとき、ふっと気づきました。私はいつも漢字で意味を知り、読むだけだったので、実際に日本語で言われると、その言葉を漢字に直すまでに時間がかかりました。言葉は読む、書くだけではなく、聞く、そして話せる、人とコミュニケーションをとるのが一番の目標です。

私は他の国の言葉を習うなら、一回ぐらいはその国に行って実際にその国の人と話し、食べ物を食べ、現地の習慣に合わせて暮らしてみても言葉もうまくなると思います。私は今、もっと日本人のように話せるようになりたいと思い、イントネーションに気をつけています。日本語は私に自信をもたらし、日本語の勉強を通して語学に興味を持ち、その魅力にはまりました。これからは、フランス語にも挑戦したいと考えています。

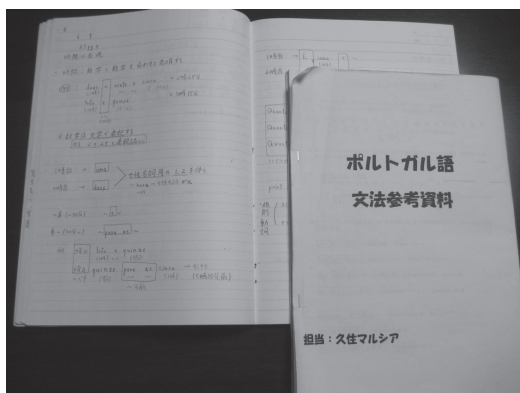
## ポルトガル語を話したい 新しい変更と深まり広がる知識

地域政策学部 1 年 青山昇平

私はポルトガル語を履修していますが、選ぶとしたきっかけは地元の環境でした。生まれてから今まで豊田市に住んでいますが、工場な

どが多くある関係でブラジルの方が多く住んでいます。いつかブラジルの方とお話をしてみたいなと子供の時から思っていました。第二外国語を選択する際に良いチャンスだと思い、ポルトガル語にすることを決めました。

英語が苦手な私は授業が始まる前に、勉強しても授業についていけるかどうか、理解できるかどうかなど、ポルトガル語に対して不安になっていました。しかし、実際に受けてみると想像していたものとは違いました。英語とは似ているようで全く異なる様式で、名詞には男性名詞、女性名詞があることなどに新鮮味があり、授業を進めていく中で興味が引き立てられていきました。そして、単数や複数によって男性名



詞、女性名詞のスペルは変わってきますし、複雑なところが難点ですが、それがまた面白いです。動詞は主語に合わせて変化するので、規則動詞では語尾を変えればいいだけで、不規則動詞になると主語に合わせた単語を覚えなといけませんし、現在形や過去形、未来形でもそれぞれ異なったりするので大変です。自分がポルトガル語を分かってきた時の面白さが良いところです。発音も独特で、巻き舌など日本語では発音しないようなアクセントが多く、声を出してポルトガル語を読むときは、なるべく先生の発音通りにするよう努めています。

授業とは関係なく、ポルトガル語は英語のスペルと似ていると思ったことがありました。授

業とは別に、授業を受けている時、板書したノートを眺めていた時に新しい発見を調べてみようと思うこともあり、色々と知りたいという勉強意欲が湧いてきます。

ポルトガル語は、英語のように難しいというようなことはなく、面白いし積極的にスキルとして身に着けていきたいと思えるような語学です。愛知県などは、特に外国の方と関わる人が多いと思うので、ポルトガル語を勉強してコミュニケーションができたと思います。

### ドラマや音楽も楽しんで… 韓国語を学んでいます！

国際コミュニケーション学部 3 年  
山田捺津子

私が第二外国語を韓国語に決めた理由は、大学入学当時、友人の影響で韓国ドラマや K-POP に夢中になっていたからでした。そんな単純な理由で学び始めた韓国語ですが、日本語と文法が同じで、似たような発音の単語が多く、非常に学びやすい言語だと感じました。

簡単な会話や文章が読めるようになった昨年の夏、私は韓国フィールドワークに参加し、またその半年後には友人と 2 人で韓国旅行へ行く機会がありました。フィールドワーク参加時は通訳の現地学生と共に行動していたため、韓国語を使わなくても不自由はありませんでしたが、個人旅行となるとそうはいきません。明洞や南大門などの観光地は日本語が通じる場合が多いのですが、私たちが宿泊したホテルの周辺はほとんど日本語が通じず、初日に夕食をとるために入った食堂では入店してから退店するまでの間ずっと不安で、戸惑っていたことをよく覚えています。しかし、そこの店員さんは韓国語が不自由な私たちに、文章を簡単な言い回しに変えて何度も説明して下さったり、話しかけて下さったりしました。それに対して、私たちも

知っている単語を使って、たとえ文法や発音が間違っていたとしても何か一言は返すように心がけました。ほんの少しですが会話できたことがとても嬉しく、それ以降はできる限り入った店先では韓国語を使おうと決め、実行したことでとても充実した時間を過ごすことができたと思います。そして、次に韓国に行く時には「もっと会話ができるようになろう！」という新たな目標を立てるきっかけともなりました。

この経験から何か母語でない言語を学ぶ際、やる気を継続させるためには、その言語を母語とする人との関わりを持つことが非常に重要だなと感じています。また、ただ教科書や参考書で勉強するだけではなく、たまにはその国のドラマや映画、音楽などを使用して、楽しみながら学ぶことも良い息抜きになります。

大学に入学して、ただなんとなく第二言語を学んでいる方も多いと思いますが、私はただ単位のために第二言語を学ぶのは非常にもったいないと感じます。単位取得以外にも何か目的や目標を持って学ぶ方が、より充実した学習ができるのではないのでしょうか。それがどんなことであれ、糧になるのであれば、その言語を学ぶ十分な理由になると思います。

### タイ語を学んで…

日本との深い縁！  
国際コミュニケーション学部 4 年  
岡部優一

皆さんタイってどんなイメージですか？私は愛知大学に入学して第 2 言語で履修する以前は、象のイメージしかありませんでした（笑）。日本で普通に生活していたらタイ語をみる事はないし、聞くこともないと思います。しかし、タイって意外に日本と大きく関わりがあるのですよ。昨年、タイの大洪水でたくさんの日本を代表するメーカーが被害を受けたのは記憶に新



しいと思います。実際に、バンコク日本人商工会議所の会員数は1,371社（2012年）で、その数は年々増加しています。これからも日本はタイと深く関わっていく事は間違いありません。

私は今までに2度タイに行ったことがあります。バンコクに行った時、本当にここは日本かと勘違いしてしまうくらい日本の物を見つけることが出来ました。街に出ると、日本語の看板や日本食レストラン、アニメを簡単に見つけることができます。コンビニに行くと、日本企業の商品、日本語で書かれたパッケージの物が普通においてあります。こんなにも日本の企業が進出していることに本当にびっくりします。バンコクは高層ビルがいくつも建っており、かなり近代的な都市です。道脇には屋台がいくつも並び、日本でいう縁日のようにいつも活気あふれています。物価もとても安いので、1食100円くらいで食べる事が出来ます。タイ料理もとても美味しいです。トムヤムクンを始めとする、タイ料理独特の味付けは一度ハマったらやめられません。ほとんどの人が仏教を信仰しているので、その信仰深さに驚きます。バンコクにあるお寺はとても大きく豪勢で一度見る価値があります。

タイは、食べ物、人、文化すべてがキュートで、何か惹きつけられる不思議な魅力があります。人々は優しく、活気溢れ、まさに「微笑みの国タイ」です。他にも、タイには面白い文化やあっと驚くような事がいっぱいあります。こ



こで話してもキリがありません。一度タイに行く事をオススメします。もちろん、タイ語を勉強して話す事が出来たらかなりタイの魅力にハマるでしょう。

**Я люблю тебя.**  
**(ヤー リュブリュー チェビヤー)**

文学部2年 山本あおい

Здравствуйте! (こんにちは!) みなさんロシア語って言ったらどんなイメージを持っていますか? 顔文字みたい、文字がローマ字と違う文字だから難しそう、あるいはあまり身近でないためよくわからない、どんな言語か想像できないという人もいるかもしれません。しかしロシア語とは意外にもわたしたちの生活に密着しているものなのです。例えばいくら。あれはもともとロシア語の *икра* (イクラア) が元であり、その意味は「魚の卵」という意味なのです。つまりわたしたちが日頃スーパーやお寿司屋さんで見かけるいくら、つまり鮭の卵はロシア語の「魚の卵」からきているということなのです。いろんな人と話していて気付いたのですが、みなさん意外とハラショーという言葉を知っていて驚きました。ハラショーとは *Хорошо* と書き、素晴らしい、いいね、などと言った意味があります (英語でいう Good. に近い)。しかしなぜこのハラショーが日本に広まっているのでしょうか、不思議です。また、文字に関してですが、確かにローマ字とはいくつか違う点もありますし、量も比べてみると多いです (ローマ字: 26文字、キリル文字: 33文字)。しかしこのなかのいくつかはローマ字と全く同じ形のものもあります。量の多さはなんともなりません、アラビア文字のように全てなじみのない形の文字でないのもまだとっつきやすいかもしれません。わたしが考えるロシア語の一番の魅力は発

音のかわいさです。文字もかわいいのですが、発音がなにより可愛くて話すのが楽しくなってしまう。文字表記なので伝わりにくいとは思いますが、例えば、I love you. これをロシア語で言うと、Я люблю тебя. (ヤー リュブリュー チェビヤー) となります。どうですか、なんだかちょっぴり可愛くはありませんか？

このように、ロシア語とはイメージとは違ってロシア語には面白いところや魅力がたくさんあります。皆様も機会があればロシア語に触れてみませんか？



## 中国語の魅力

現代中国学部 3 年 大槻和也

近年中国経済が発展するにつれ、中国語学習者が増えつつあります。私もそのうちの一人です。しかし私が中国語を学び始めた理由は特に中国経済を見据えたわけではなく、ただ日本語と似ている中国語に魅力を感じたからです。私は昔から日本と似ているようで、やはりどこか違う歴史や文化を持つ中国や韓国などの東アジアの国々に興味がありました。日本は歴史的に中国や韓国から大きな影響を受けており、中国や韓国のことを学ぶと、同時に日本についても学べることがあります。

それは言語においても言えることです。日本語は中国語や韓国語の影響を受けています。特に中国語の影響は大きいです。中でも最も大き

な影響は漢字でしょう。日本語において漢字は必要不可欠な存在です。例えば「なごやえきでしょくじ」と平仮名だけで表記した場合と、「名古屋駅で食事」と漢字と平仮名を混用して表記した文章とでは、読みやすさが違います。また中国語と日本語との間では語彙が同じのものが多くあり、日本語母語話者にとって中国語はやはり学びやすい言語なのではないかと思います。私は現在留学中ですが、カナダやタイからの留学生が漢字を覚えるのに苦労している一方で、日本人留学生は漢字を覚えるのに特に苦労はしていません。やはり同じ漢字という文字を使い、日本語に似ているという点が中国語の一番の魅力だと思います。

また中国語には他の魅力があるのかと聞かれたら、私は中国語には英語や日本語のような動詞や形容詞、副詞などの活用がないことを挙げます。英語の授業のとき、動詞や形容詞などの活用のルールに慣れることのきつと多くの人が苦しんだと思います。中国語にはそのような複雑なものはありません。しかし、その代りに、中国語では語順が命となります。私は中国語はパズルのようなものだと思っています。辞書から必要な語彙を取り出し、それらを正しく組み合わせていくことで文として成り立っていくからです。特に変化を与える必要はありません。本当に正しく組み合わせさえすればいいのです。私はこのような中国語の特徴をととても面白く、魅力的に感じます。

以上、1つ目は日本語との関係から見た魅力、2つ目は中国語そのものの魅力を挙げました。他にも中国語の魅力はたくさんありますが、ここでは私が思う2つの魅力を挙げました。この文章を読み中国語に興味を持っていただけたら幸いです。

## 日本語の学習

### ——『ワンピース』に導かれて

国際コミュニケーション学部 2年

烏寧奇

あるマンガに夢中になったことから、マンガの精神を深く理解するため、その書かれた言葉を勉強するのはクレージーでしょうか。

私が最初に日本語と接触したのは十年ほど前、中国でブームになっていた日本のマンガを見た時でした。その頃、『ワンピース』というマンガが少年達に注目されていました。皆が引きつけられたのは、そのストーリーラインで、私もその中の一人でした。しかし、その時見ていたのは、中国語に翻訳されたマンガでした。翻訳されたマンガを見る時によく出会う問題は時々ストーリーの前後の内容が上手く繋がらないことです。しかも、ストーリーのキーポイントなのに、意味が間違っているような言葉が使われることもよくあります。そんな言葉に出会う度、心の中で“日本語が分かっていたらよかった。”という小さい声が聞こえました。その時から、私は日本語に興味を持つようになったと思います。時が流れても、『ワンピース』に対する熱意は全く減りませんでした。読めば読むほど好きになり、中で演じているキャラクターを自分が体験しているみたいでした。主人公と共に笑い、共に泣いていました。この素晴らしいマンガをもっと深く理解したくて、私は日本語の勉強を始めました。日本語の勉強の行程にずっと付き添ってくれたのも『ワンピース』です。そしてとうとう、自分の人生を変えた『ワンピース』の中の宝物を追いかけて、日本にきました。日本では毎週の翻訳を待たなくても、直接テレビから見られました。これは私にとって画期的なことでした。『ワンピース』に導かれて来た日本ですが、最初は様々な悩みがあり

ました。日本語の勉強も大変でした。しかし、日本に来てから、日本語の力が大進歩したとも思います。言葉は環境とは密着しているため新しい言葉を学ぶためには、その環境で生活することが不可欠だということを教えられました。同じことを違う言葉で指すことができるけれども、その中の微妙な違いはその言葉を勉強しないと理解しにくいということも『ワンピース』に導かれて来た日本という環境に教えてもらいました。

今私は日本で日本語の勉強を本当に楽しんでいます。新しい言葉の習得は新しい世界を開いてくれることを実感しています。これが言葉の力というものでしょう。

# 私たちの留学体験記

## 短期語学研修に参加して

国際コミュニケーション学部3年  
鍋本 彩

今日、英語が共通言語として世界中で使用されていることは大変興味深いことです。私は大学に入ってからその世界の共通語としての英語を深く研究したいと思い、これまでの2年半勉強に取り組んできました。

そして今回イギリスで1ヶ月実際に暮らしてみても学んだことは、「積極性」の大切さです。思ったことを口に出すことは勇気が要りますし、なおさら母語ではないと微妙なニュアンスも伝わり難くなり、お互いの意思疎通は簡単ではありません。しかし、「積極性」を持つことは、コミュニケーションを円滑にする近道なのです。

ホームステイ初日に、日本のお土産を持っていったことをきっかけに日本の文化や習慣を英語で伝えました。その時相手が興味を示してくれたことがとても嬉しく、つたない英語で話が伝わることの喜びを感じました。また、私はイギリスのことはおろか、自国のことさえ英語でうまく話せないのだと気付くことができ、勉強の意欲向上にも火が付きました。そして私はホストマザーと話すことが一番良い勉強法だと気付き、1か月間彼女との会話に没頭しました。お互いに料理が趣味だったので毎日夕食とデザートと一緒に作り、彼女の英語を真似て、寝る前には料理についての単語などを勉強し続けていると、最後にはお互い冗談を言い合えるほ

ど会話がスムーズになりました。このように私は自分の時間よりもホストマザーと過ごす時間を優先し、それによって私には今、ホストマザーから教わった生きた英語が根付いています。



外国語でコミュニケーションを取ることは簡単ではないし、躊躇することも当たり前ですが、私はそれを乗り越える努力をすればそこから英語能力が伸びる可能性は十分にある、ということ学びました。この体験はこれからの私の勉強の糧になるだろうと確信しています。そしてこの経験を通して生まれた発見は、残る1年半の大学生活の過ごし方を決める鍵になったと思っています。この貴重な体験をすることができた周りのすべての人への感謝を忘れずに、これからも努力を続けたいと思います。

## ドイツ留学体験記

国際コミュニケーション学部4年  
横井仁美

私は、2年次に1年間、ブレーメン州立経済工科大学に留学しました。初めの頃は、まだドイツ語が全く話せず分からなかったのですが、パン



一つ買うのも一苦労でした。毎日、些細な事をするのにも、少々不安を感じたり、ドキドキしていました。大学に通って生活に慣れていくにつれ、私もドイツ人の友達ができました。授業後に美味しい飲食店に連れて行ってもらったり、休日に一緒にスポーツをしたりしました。遊びながらドイツ語やドイツの文化を教えてもらったりするなど、「遊ぶ中で学び、遊ぶために勉強する」という、学ぶ楽しさを留学中はい



つも感じていました。ドイツ人との授業では、初めてのことが多くて戸惑うこともありましたが、一生懸命、自分なりに切磋琢磨することができました。学生の発言も多く、授業に対するドイツ人の姿勢も強く感じました。そして語学の授業では、さまざまな国から来た留学生と一緒にドイツ語を学びました。できる、できないは関係なく、どの留学生も個々によく発言して、授業中はとても活気に溢れていました。皆、和気あいあいとしていて楽しかったです。

また、留学中は自分の周りから沢山の助けがありました。生活や語学に悩んでいる時にはドイツ人の友達や他の日本人留学生が助けてくれました。家族も遠く日本から私を支えてくれました。できないならできないなりに、自分だけでどうにかしようと悩まずに、苦しい時は苦しいと助けを求める事の大切さを深く学んだ年でもあります。そして、多くの方から沢山の事を教えていただきました。また勉強に対する姿勢や考え方など、さまざまな点で良い刺激を受け

たと思います。留学中に得たこの刺激と友達はただ留学中だけでなく、今でも自分にとってかけがえのない大切なものです。

楽しい時や辛い時、日本との文化の違いに驚く時など、思い出深い1年でした。

1年間多忙でしたが、悔いを残すことなく、楽しくて充実した留学生生活を過ごせました。

## フランス留学

### 留学前の準備と現地での生活

文学部3年 堀田泰治

私の留学のきっかけは、国際交流センター主催の留学生歓迎パーティーでの出会いだった。そこには様々な国の協定留学生が来ていた。私は将来的に、漠然と国際NPO等に携わりたいと考えていたため、国際公用語としての英語・仏語に興味があったがきっかけをそれまで掴めずにいた。そのパーティーでフランスの留学生と仲良くなり、普段からよく遊ぶようになった。そして彼らと交流していくうち、留学を決意する。

それからは、図書館で彼らとお互いそれぞれの言語を教え合い、共に勉強をした。文法書一冊を二回解き、友人が教えてくれる単語をノートにメモし覚えた。

協定留学には、筆記・面接・会話・書類選考等の試験が課される。留学を決意した9月から約4ヶ月程度毎日勉強し、試験に臨んだ。それに合格した後も慌ただしかった。出すべき書類が多いのだ。交流センターの職員の方に教わりながら、他の留学希望者と協力して仕上げた。現地で必要なものなどは、過去の先輩のアドバイスを読んで準備するのがよいだろう。

私は、1セメスターの協定留学を行ったが、普通は一年間である。一年間でも短い、1セメスターは本当に短かった。それほど現地での

生活は初めから終わりまでずっと楽しく充実していた。

留学先の大学の敷地は広く、自然豊かなところで、学生たちものびのびとしていた。留学先の大学でもいくつも試験があり、慌ただしく緊張する日々が続いたがそれすら新鮮で楽しいと感じた。数日後、授業が始まってからは様々な国の友達ができ、パーティーにも連日参加して交流を深めた。帰国する際には、みんなが引き止めてくる位仲良くなれた。授業の間の休みは、旅行もした。一人で計1ヶ月半は周辺国や国内を回ってここでも様々な出会いや経験をした。留学を考えている人は、是非留学生たちと交流してみたい。そして少しだけ勇気を出したい。その勇気が留学に繋がると思う。

## 留学体験記

### イギリスへの個人留学

文学部3年 井寺利奈

異国の空港でパスポートとチケット片手に重い荷物を引く。周りはさまざまな人種の人たちと耳慣れない言葉のやりとりであふれかえっている。そんな中、一人ぼっちで頼れるのは『地球の歩き方』だけ。キラキラした興奮と心細さでいっぱいになる…。これこそが個人留学のメリットではないでしょうか。

私は二年生の春休みに一か月間、イギリスのロンドンに個人で語学留学しました。大学のプログラムもちろん魅力はありましたが、春にイギリス・プログラムがなかったこと、個人留学の方が、費用が安かったことで個人留学をしようと決断しました。現実的な話をしておくと、大学プログラムの場合は総費用が40～50万円、私の場合は飛行機代と授業料、ホームステイ代、その他海外保険料などを含めて30万円弱でした。安さの理由は留学会社を通してないため

です。その分、なんでも自分でしなければなりません。例えば、学校選び、ホームステイの受け入れ家庭探し、それぞれへの申し込みなどインターネットで行うことになります。苦勞も多いですが、手続きを通して実践の英語を身につけることができます。(各申し込みを発送料金だけで請け負ってくれる留学会社もありますので、ぜひ調べてみてください。)



学校選びを自分で行えるというのもとても大きなメリットだと思います。私は日本人が少なく、Caféがあり、会話重視の学校を選び、午前のみクラスをとりました。それによって午後は仲良くなったクラスメートとCaféでおしゃべりしたり、ロンドン探索に行ったり、買い物に行ったりと、とても自由に過ごすことができました。また、週末には姉が留学中だったポルトガルに遊びに行ったりもしました。

このように、個人留学の場合はなんといっても行動が自由ですから、自分だけの留学を創り上げることができます。しかし、自由には責任が伴います。何から何まで自分でやることは気力が必要です。ですがその責任も留学が終わってみれば自分でなんでもやり遂げたという自信に変わります。私もこの留学以降、どこに放り出されたって平気!という自信ができました。

個人留学は本当にたくさんのことを得られます。悩んでいる人はぜひ思い切って飛び立ってみてください。きっと忘れられない人生の宝物になると思います。



## 語学教育研究室より

### ユーロ危機でもなぜドイツは強いのか

－ Made in Germany の話－

文学部 鈴木康志

現代の私たちの生活には外国のものが溢れています。ただ、外国と言えばアメリカを、ヨーロッパではイギリスやフランスを思い浮かべる人が多く、ドイツはイマイチかもしれません。現在ユーロ危機にあって、ドイツの力が再認識されるようになりましたが、実は意外に私たちの身の回りに、ドイツの力を表す *Made in Germany* のものが溢れています。今回はその一部を紹介してみたいと思います。

少し前の話になりますが、あるラジオ番組で、女子大生が選ぶ「外車ベスト5」というのがありました。結果は1位、ベンツ、2位、BMW、3位、アウディ、4位、ポルシェ、5位、オペルでした。これらに共通するのはすべてドイツ車ということです。ディーゼルエンジン、ジェットエンジン、液体燃料ロケットの発明がドイツであるように、ガソリンエンジンによる自動車の発明もドイツです。しかもゴットリープ・ダイムラー（1834～1900年）とヴィルヘルム・マイバッハ（1846～1929年）のコンビとカール・フリードリヒ・ベンツ（1844～1929年）が、直接の交際がなかったにも関わらず、ドイツ、シュトゥットガルト近郊で同じ時期（1880年代）に別々に世界初の自動車を製造、開発したことは驚きです。ダイムラー社は1926年ベンツ社と合併し、ダイムラー・ベンツ社が誕生します。ドイツではベンツのことを「メルセ（ツェ）デス（Mercedes）」といいます。これはオース

トリア・ハンガリー帝国の外交官であり、実業家でもあったE.イエリネクが、ダイムラーの車を販売するとともに、宣伝のためレースにも参加させ、その際ダイムラーの車に、自分の娘の愛称をとってメルセデスと名づけたことによりです。

BMWは、ドイツ語発音でベー・エム・ヴェー、*Bayrische Motoren Werke*（バイエルン、エンジン製造会社）で作られる高級車です。ミュンヘンにある本社は、エンジンのシリンダーを模した円筒形を組み合わせた有名な建物ですが、BMWは現在でも最も人気のある車ではないでしょうか。BMWとともに人気が高いのがフォリングのエンブレムで有名なアウディです。*Audi* とは、この車の創業者アウグスト・ホルヒの名のホルヒ（Horch）が、「聞く」を意味するドイツ語 *horchen* の2人称単数（*du*）に対する命令形にあたり、それを響きのいいラテン語にしたものです。

ポルシェを語るにはフェルディナンド・ポルシェ（1875～1951年）に触れなければなりません。最近ハイブリッドカーや電気自動車の実用化が話題になっていますが、今から100年も前に、ポルシェによって一種のハイブリッドカーや電気自動車が開発されていました。ポルシェが生きた時代はナチスとも重なり、武器製造にかかわるなど負の側面もあります。ポルシェはヒトラーの依頼を受け、国民の（フォルクス）車（ワーゲン）を作ります。こうしてできあがった車は、ケーファー（ビートル）の愛称で親しまれました。ただ、戦争のためこの車は戦前国民に届きませんでしたが、ヴォルフスブルクの工場は、その後ヨーロッパ最大の自動車メーカー、フォルクスワーゲンになります。



ドイツ車のエンブレムの図

ご存じのように豊橋はフォルクスワーゲン社の日本における拠点です。女子大生のアンケートにフォルクスワーゲン社の車が入りませんでしたが、今ならかわいい「ニュービートル」や「ゴルフ」、「ポロ」などもベスト5にあがったかもしれません。ところで、ポルシェの一人息子フェリーは、シュトゥットガルトでポルシェ社を引き継ぎ、「ポルシェ・カレラ」など熱狂的なファンをもつスポーツカーを生み出すことになりました。

ちなみにこれらのドイツ車は日本のテレビでも宣伝されていますが、しばしばドイツ語が用いられています。例えばベンツでは「Das Beste oder nichts (最良か無か)」、これは創業者ダイムラーの言葉(社是)で、作るなら最良のもの、妥協はダメといった意味です。またアウディは「Vorsprung durch Technik (技術によるリード)」、オペルは「Technik, die begeistert (感動させる技術)」など、ともに世界最高の車を作り出す、モノづくりの国ドイツをよく表しています。BMWは「Freude am Fahren (駆け

抜ける喜び)」「Freude ist BMW (喜び、それはBMW)」など、走る「喜び」に焦点があてられています。

ドイツ車について語ると切りがありませんので、今度は小さなもの「ステーションナリー (文房具)」に目を向けてみましょう。文具好きの方はご存じと思いますが、ドイツは文具王国です。例えばスティックのりがドイツの発明であることをご存じだったでしょうか? 「プリット (Pritt)」は1969年に(西)ドイツのヘンケル社 (Henkel) で発明されました。1970年から日本でも売り出されますが、発売時のキャッチコピーは「ドイツから来た接着革命」でした。また鉛筆も初めて商品化したのは、1761年創業で、昨年250周年を迎えたファーバー・カステル (Faber-Castell) というドイツ企業です。この会社は画家デューラーを生んだニュルンベルク郊外のシュタインという町にありますが、鉛筆の形をした建物、色鉛筆のようなカラーの窓が会社をよく表しています。この会社は1851年、鉛筆の長さ、太さ、硬度の世界基準となる六角形の記念碑的な1本を作ります。さらに1905年深緑色がトレードマークの有名な「カステル9000」を作り、この鉛筆には中世の騎士が馬上試合をしている図案が組み込まれました。これがその後ファーバー・カステル社のロゴとなりますが、騎士が持っているのは剣ではなく、鉛筆です。「鉛筆 (ペン) は剣より強し」なのでしょうか、きっとみなさんもファーバー・カステルの、美しい色鉛筆シリーズなど使われたことがあるのではないのでしょうか。

ニュルンベルクはワーグナーの楽劇の「マイスタージンガー」やクリスマスマーケット、おもちゃの町としても有名ですが、ドイツの文具職人たちの町でもあります。文具メーカーとしてあまりにも有名なスワンスタビロ (Schwan STABILO) やステッドラー (STAEDTLER) も



ニュルンベルクにあります。Schwan はドイツ語で白鳥ですが、これがスタビロのシンボルマークです。白鳥の形をした鉛筆削りなども人気ですが、やはりスタビロは美しいペンです。特に「スタビロボス」は世界最初の蛍光マークペンです。手ごろで、カラーヴァリエーション豊富なフェルトペン「ポイント 88」はみなさんも使われていると思います。ローマ神話の軍神マルスをシンボルにしたステッドラーは鉛筆、ボールペンなどが有名ですが、色鉛筆のブランド、ステッドラー 24 色セット「エルゴソフト 24c」なども素敵です。ドイツにはその他にも有名な文具メーカーとして、万年筆のモンブラン (Montblanc) やペリカン (Pelikan)、機能美と使い易さを重視した筆記具



ドイツの文具の写真

メーカーのラミー (LAMY)、製図ペンのロットリンク (rotring)、プラスチック文具のコジオル (Koziol)、三角太軸鉛筆や消しゴムのリラ (Lyra)、鉛筆削りのクム (Kum)、組み立て文具のヴェルクハウス (Werkhaus)、アルミ素材のヴェルター (Wörther) などがあります。

これらは優れた Made in Germany のほんの一部にすぎません。例えばスポーツ用品の「アディダス (adidas)」と「プーマ (Puma)」はドイツ人の兄弟ですが、Puma には文房具もありますね。また、システムキッチンがドイツ生ま

れですが、キッチン用品でもドイツはブランド大国です。例えば、調理機器の「フィスラー (Fissler)」、刃物はツヴィリング (双子) マークの「ヘンケルス (Henckels)」、食器の「WMF (ヴェー・エム・エフ)」、ポットの「アルフィ (Alfi)」、コーヒーマーカーやフィルター「メリタ (Melitta)」、キッチンスケールの「ツェーレンレ (Soehnle)」など Made in Germany のものに溢れています。

ドイツは、世界ブランドの車に加え、製菓のバイエル、電気機器のジーメンス、化学コンツェルンの BASF、産業機器のボッシュなど有名な企業が多くありますが、このような大企業とともにドイツの経済を支えているのは優秀な技術力を持ち、目立たない分野で世界一のシェアをもつ多くの中規模企業です。このようにドイツは大企業から中規模企業まで優秀で、世界的な競争力を持っています。ここがユーロ危機にあっても、あるいはユーロ危機によるユーロ安ゆえに、輸出力を持つドイツが強くなる理由の一つがあります。ドイツは、バッハ、ベートーベン、ブラームスなどのクラシック音楽、ゲーテ、シラー、トーマス・マンなどの文学、カント、ヘーゲル、ニーチェなどの哲学など「文化の国」であるとともに、世界でも群を抜く「モノづくりの国」でもあるのです。

#### お勧め参考文献

1. ヴォルフラム・ヴァイマー編著 (和泉 雅人翻訳)  
『ドイツ企業のパイオニア』1996 年 大修館書店
2. 浜本隆志『モノが語るドイツ精神』  
2005 年 新潮社
3. 熊谷 徹『あっぱれ技術大国ドイツ』  
2011 年 新潮文庫

## 「鶏西」を知っていますか(2)

### 日本語学校見学記

現代中国学部 梅田康子

「言葉を身につけるなら鶏西へ行け」と言われるほど、大勢の若者が日本語を学ぶ中国黒龍江省鶏西市。2011年8月、私たちは省都ハルビンからバスで7時間半かけ、ようやく鶏西に到着しました。前号(語研ニュース26号)では、日本語学習の町「鶏西」の紹介と、鶏西にいたるまでの道のりについて書きましたが、今号は、いよいよ日本語学校見学です。日本を出発して3日目、一晩寝ればバス旅の疲れもすっかりとれ、朝早くからS学院を訪ねました。

S学院は、1998年に設立された教員約40名、学習者は1,000名を超える大規模校で、訪問したときは、まだ新学期が始まっておらず、ちょうど入学手続きの時期でした。自宅から通う学生は少なく、ほとんどの学生が遠くから来ているので、住むところもさがすことになります。女子は学校の宿舎に住む人が多いようですが、男子は近くのアパートなどを借ります。この日も朝から2、3人の学生さんが入学手続きにきていました。

こちらの学校では、このような早く到着した新入生のために、入学前講座を開いています。あいうえおの読み方、書き方、発音などの授業です。また、早く戻ってきた2年生のためにも、復習クラスを開いています。こちらは、日本語能力試験の対策講座などです。私たちは、こうした非正規のクラスを2つ見学しました。

まず、午前、日本語能力試験対策の授業を見せていただきました。クラスは20名程度、授業の内容は、試験の出題基準に合わせた文型の復習で、文法的な説明、例文の解釈など、一般

的な授業展開と言ってよいでしょう。先生は、30前後の女性でしたが、もう大ベテランという感じです。文法説明も立て板に水、例文もすべて暗記していて、教案も黒板も見ず、明るい笑顔でつねに学生の顔を見ながら、自信満々に教えていました。リピート練習や拡張練習、応答練習といったオーソドックスなドリル練習をしていましたが、特徴的だったのはその声の大きさです。先生は笑顔を崩さず、とっても大きな声で教えます。そして、学生たちも先生の後について、教室中に大きな声を響かせて例文を繰



嵐のようなリピート練習

り返します。そのやり方はこれまでマスコミで紹介されたそのまま、先生に負けじと怒鳴るように声を出している様子には、圧倒されました。もし100人だったら、授業後にはきっと耳鳴りがしていたでしょう。

見学の後、先生に何うと、大きな声で授業を行うのは学校の方針だということです。自信がないと大きい声が出ない。だから学生は予習するし、授業にも集中することができるとのことでした。先生はもう普通の地声も大きくなってしまったそうです。ち



ロビーに掲げ  
あるスローガン

なみに、こちらの学校にはいろいろなイベントに使える広いロビーがあり、日本語の他に英語、韓国語で様々なスローガンが掲げてあります。なかでもっとも目を引いたのが写真のスローガンです。

ここまでとは言いませんが、大声で日本語文を繰り返す学生さんたちは、やる気パワーがみなぎっていました。

お昼は学校の食堂でいただきました。当地は、朝鮮族（韓国朝鮮系の中国人で、少数民族の一つ）も多く住んでいるためか、キムチをはじめ辛い料理が多かったです。日本の学校給食のように、並んで料理をよそってもらいます。違ってゐるのはマイ箸、マイボウルということ。みな自分に合う大きさの食器を持ってきます。

食堂はそれほど大きくないのですが、学内にある書店は大きくて、語学関係の書籍が充実しています。S学院には英語、韓国語のコースもあるので、英語や韓国語のもの置いてありますが、やはり日本語の本が多いです。日本語教材は、鶏西でもっとも揃っていて、他校の学生も買いに来るそうです。

お昼をはさんで、午後は入学前のクラスを見学しました。入学前だというのに、かなりの人数で、この日はディクテーションをやっていました。先生が言ったことをばをノートに書き、指名された人が、黒板に答えを書きます。まだ、



ちょっと恥ずかしそうに書いている

大声授業を受けていないからでしょうね。自信がなさそうな人が多く、さっさと書く人もいれば、左右を見たり、誰かに答えを確認しながら書いたりする人もいます。ちなみに、このクラスの先生は、若い男の先生で、かなりのイケメンでした。

授業後、あのスローガンが掲げてあるロビーで、学生さんたちと交流しました。こちらの学校の自慢は、学生の発音の良さだそうです。先生たちは、日本語ネイティブではありませんが、発音を重視していて、アクセントもきちんと指導しています。確かに、このとき交流した学生さんたちは、はっきりした発音で話すので、聞き取りやすかったです。話すことに自信がないと訴える人もいたのですが、もっと自信を持ってほしいですね。

ところで、このS学院を始め、現在鶏西の日本語学校では、一時より入学者が減少しているそうです。鶏西だけではなく。もともと中国の日本語教育は、北の方が盛んですが、最近は、南方にも日本語学校が増えてきたため、東北部に学習者が集中するということは無くなってきたようです。また、東北にある朝鮮族の中学・高校のほとんどが外国語として日本語を教えていたのですが、社会的ニーズの変化から英語にシフトしてきたことも一因になっていると思われます。

国際交流基金によると、海外の日本語学習者は、およそ365万人（2009年）で、国別では、韓国がもっとも多く96.4万人、ついで中国が82.7万人です。合わせるとほぼ半数ですね。では、中国の日本語学習者はなんのために日本語を学んでいると思いますか。大学生（高等教育）の場合、1）就職、2）漫画・アニメ等の知識、3）日本語そのものへの興味、です。中高生（中等教育）の場合、1）日本語そのものへの興味、2）大学受験等、3）歴史・文学・漫画・アニ

メ等の知識、です。そして、今回おじゃましたS学院のような一般の語学学校では、1) 留学、2) 就職、3) 日本語そのものへの興味、です。調べてみたら、愛大にもS学院で日本語を勉強していた留学生がいました。夢が果たせたわけですね。

さて、みなさんは、何のために外国語を勉強しているのでしょうか。その言語自体への興味はありますか。そして、私は…。中国東北の鶏西という地方都市で、熱血教師と出会い、熱い日本語学習者と触れ合い、良い心地でバスに乗り、ハルビンまで8時間の帰途につきました。

参考：国際交流基金「日本語教育国・地域別情報」  
<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/china.html>

## 受身表現の“被高速”現象 －中国語の新用法から－

現代中国学部 薛 鳴

中国に行く度に新しい言葉に出会う。今年も中国でたまたま手にした地方紙の見出しに“〇〇被死亡”というのを目にしたとき、新鮮さと驚きを覚えた。

筆者が大学で日本語を勉強するとき、日本語の受身表現に「間接受身」「迷惑受身」ともという、中国語の受動文にない受身の用法を知った。例えば、次のような例文があった。

- ①彼は幼少時に父親に死なれ、家計が苦しくて大学に行けなかった。
- ②昨夜、隣の赤ちゃんに泣かれて、よく眠れなかった。
- ③お客さんに来られて勉強できなかった。

これらの文を中国語に訳す際に、そのまま“被V”と直訳できない。以下のような意識になろう。

- ①' 他儿时丧父，家境困难，没能上大学。
- ②' 昨晚隔壁的孩子哭得我没睡好觉。
- ③' 来客人，搞得我没能学习。

少し高度な訳になったが、言い回しの工夫を差し引いても、中国語では“死”、“哭”、“来”のような自動詞は“被V”の形にできないため能動文になる<sup>i</sup>。それだけに、その新聞の見出しの“被死亡”を見たときは、中国語もとうとう「死なれた」的な用法が出現したかと思った。が、記事の内容を読んでもみると、ある同姓同名の死亡者のせいで、その〇〇というタレン



トが「死亡」とされたという話であった。つまり、本人（A）が知らないうちに、「死んでいる」のであって、誰かに死なれているのではない。しかし、それによってAは迷惑を被る。似通ったものに“被自殺”（自殺とされる）もあるが、まさに中国語の伝統的な“被V”とも日本語の迷惑受け身とも異なった新用法である。

そこで、まず、中国語の伝統的な“被V”についておさらいをしてみよう。基礎中国語のテキストには次のような例文がある。<sup>ii</sup>

④ 树被风刮倒了。

木は風に吹き倒された。

⑤ 我的汽车被（树）压坏了。

私の車は（木に）押しつぶされた。

⑥ 我被雨淋了。

私は雨に降られた。

それを一般化すると、次のようになる。

A+ 被 +B+V    {A は B に V（さ）れる}  
A：“受动者”（動作の受け手）  
B：“施动者”（動作者）

動詞 [V] は通常、何かの結果をもたらすことを含む意味を表すため、「結果補語」を伴うことが多い（④、⑤）。一方、動作者を明示しない「A 被 V」{A は V（さ）れる} の場合もある。受け身だけに、Aにとって不本意であるため、Vはマイナス的な意味を持つ動詞が多い。

そこで、“被”の新用法について、伝統的な“被V”とどう違うか。もう少し用例を見てみよう。<sup>iii</sup>

⑦ “我是年年‘被捐款’” 市民刘先生说，…每年工资里都会被不经协商地扣掉几百块钱。

⑧ 广州公交车上你“被让座”了吗？

⑦の“被捐款”で“捐款”（寄付）したのは“刘先生”で、後半の文で分かるように、「知らないうち、毎年給料から何百元も天引きされている」。つまり、「寄付という名の下で給料が引かれる」という意味で語っているものである。⑧の“被让座”も「席を譲られる」のではなく、「譲る」のである。

そこで、この用法を一般化すると以下のようになる。

“A 被 V”

A：“施动者”（動作者）

「動作者」の観点からすると⑦、⑧は下記のようになる。

⑦ “我是年年捐款”……（私は毎年寄付している。）

⑧ “广州公交车上你让座了吗？”（広州のバスの中ではあなたは席を譲りましたか。）

では、なぜわざわざ“被”を使うのか。

“被”を付けることによって、知らないうちに、または、やむを得ず、あることを「させられた」、あるいは、ある状況に「仕立てられた」という意味になる。したがって、日本語と対応させるなら、「られる」形の受身ではなく、「させられる」形の使役受身になる。“被捐款”、“被让座”は、「寄付させられる」、「席を譲らされる」という意味だ。ここで用いられる動詞は、プラス的な意味を持つ二音節動詞なのが特徴である。一方、不本意であることは、伝統的な“被V”に通じる。それが“被”が用いられる理由の所在とも言えよう。

中国版言語生活白書である「中国语言生活绿皮书」2009年『汉语新词语』の記述によると、2009年の「今年の漢字」の第一位に“被”が

選ばれた<sup>iv</sup>。実際以上の成長率を報じられる“被増長”、民意が反映されないままの“被代表”、上場が決まる前に上場と報じられる“被上市”、親の意思で留学させられる“被留学”等々。民主的でない現状を“被～”型としてツイートされたのが広がったのち、マスコミにも登場したわけだ。

この新用法は動詞に留まらず、形容詞や名詞にも広がっている。例えば

⑨一夜之间“被小康”了，虽然这几年我们的工资越来越不够用。

“小康社会”（ゆとりのある社会）という目標を掲げている中国にあって、「一夜のうちに“小康”になったかのように騒がれている。われわれの給料がますます足りなくなったとはいえ。」ユーモア感さえある言い回しである。ほかに“被富裕”や“被幸福”もあるが、いずれも建前と現実の隔たりを皮肉ったものである。

“被”が名詞に冠する用法として、あるときラジオで“被精神病”という言い方を聞いたことがある。精神病呼ばわれ、病院に入れられたという意味で使われたものである。また、ある雑誌では‘中国应慎防“被世界大国”’という題の文章を見る。“World Power” “Great Power”として語られた“中国”に警鐘を鳴らす一文である。

表題の“被高速”も、その発展的な用法の一つである。時速350<sup>km/h</sup>を誇る中国の新幹線—“高铁”（高速鉄道）の開通によって、移動時間は大幅に短縮したが、運賃も大幅に値上げした。出稼ぎ労働者の“农民工”（農村からの出稼ぎ労働者）はもとより、都市部の一般庶民にとっても痛い出費である。そこで、“被高速”という言い方が出現した。

目まぐるしい変化を遂げている中国では、さまざまな社会現象を語るために、たくさんの新語が出現している。今年刊行された《現代漢語詞典》第6版に収録された新語、新用法が3000余語に上る。新語を“高铁”と例えるならば、新用法は「在来線」の「既存語」に新しい用法を付与するものと言えよう。が、あまり“被高速”すると、規範性の問題が生じる。ここで紹介した“被”の新用法が引用符“”の中にいるのは、まだ公式な使い方として認められるまで至っていないからだろうか。しかし、“被X”型として注目され、研究論文も現れている。日本語の「ら抜き」言葉が、「可能」、「受身」、「尊敬」表現の使い分けに一役買っているのと同様、“被V”の新用法—“被X”は、それでしか表せないニュアンスが込められているので、ますます広く使われるようになるとすれば、いずれ文法書に書き加えられる日が訪れるであろう。

<sup>i</sup> “哭”は、“我被孩子哭得没睡好觉”のように結果補語を伴う場合はかなり自然さが増す。

<sup>ii</sup> 愛知大学現代中国学部漢語研究会編（2006）『中国語課本』あるむ

<sup>iii</sup> 張恒君（2010）「“被X” 汉语新詞探析」『現代中国語研究』第12期（朋友書店）の用例より

<sup>iv</sup> 侯敏 周荐 編（2010）『2009汉语新词语』商務印書館

## MIT での一年を振り返って

法学部 北尾泰幸

### 1. はじめに

2011年4月より2012年3月まで、愛知大学・学外研修制度により、アメリカ・マサチューセッツ州ケンブリッジにあるマサチューセッツ工科大学 言語学・哲学学部 (Massachusetts Institute of Technology, Department of Linguistics and Philosophy) でVisiting Scholar (客員研究員) として理論言語学の研究に従事した。愛知大学名古屋校舎の移転の年であるにもかかわらず、在外研究に送り出してくださった愛大の皆様、とりわけ英語教員の皆様、外国語担当教員の皆様、法学部教員の皆様にたいへん感謝している。

マサチューセッツ工科大学、通称 MIT は数理科学や工学等で有名な大学であるが、実は私が専門としている理論言語学・生成文法の研究が盛んな大学でもある。それは生成文法の創始者ノーム・チョムスキー (Noam Chomsky) が Faculty としてMITにいるためである (現在は Emeritus (名誉教授) という肩書で Faculty の一員として加わっており、自身のオフィスで学生や研究者の質問に応じるとともに、数年に一度授業を持つことがある)。生成文法理論の研究をしている者なら、一度はMITに行きたい、できることならMITで授業を受けたいという気持ちを持っている人が多いと思うが、私も生成文法の研究を始めてからずっとその思いを抱いてきた。審査を経てVisiting ScholarとしてMITに身を置くことができ、本当に嬉しくまた充実した一年であった。今回はその一年を振り返り、印象的だったことに絞って書き記したいと思う。

### 2. MITのキャンパスおよび学生気質

アメリカの大学といえば、広大なキャンパス

で、学生が芝生の上に寝転んで、本を読んだりおしゃべりをしたりしている様子が目に浮かぶだろう。私が大学院生時代に留学したUCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) はまさにそのようなキャンパスであった。

実はMITはそのようなハリウッド映画に出てくるようなアメリカらしいキャンパスとは少し異なる。キャンパス自体は広いのだが、「ここからここまでが大学の敷地」と明確に区分けされているといった感じではなく、建物は比較的まとまって建てられているものの、キャンパスの中にはMITの建物ではないものもあつたりする。例えばMITの最寄り駅である地下鉄Red LineのKendall Stationで降りると、駅前にはMIT Coop (大学生協) があるので、その周りの建物もすべてMITのものかと思いきや、ホテルがあつたり銀行があつたり、レストランがあつたり…といった具合で、MITの建物ではないものも多数あり、街の中にいる雰囲気である。しばらく歩いていると、実はMITのキャンパス内を歩いているということに気付く。

MITには、煙突が出ているまるで工場のような無機質な建物がある一方で、私がいた言語学・哲学学部が入るStata Centerや建築学部の建物などは、思わずカメラのシャッターを切りたくなるような超近代的な建物である。建物が同じ色で揃えられているHarvardやUCLAのような美しさはないかもしれないが、この雑多な感じこそがMITらしさであると感じた。

Stata Centerは建築家Frank O. Gehryがデザイ



写真 1 MIT Stata Center

ンした建物で、2004年に完成した。言語学・哲学学部のほかに、コンピュータサイエンス・人工知能のラボなども入っている建物であるが、1階に大教室やカフェテリア、スポーツジム、託児所などもあることから、上記の学部に限らず、学生の利用率が非常に高い建物である。学生がカフェテリアのテーブルに座り、コーヒーを片手にラップトップコンピュータを広げて勉強している。中には地べたに座り、足を伸ばしてその上にラップトップコンピュータを乗せて、キーボードをカタカタ叩いている者もいる。常にどこでもラップトップコンピュータを離さない学生の姿を見て、私自身も大いに刺激を受けた。このStata Centerの1階には掲示板があり、そこに黒板が据え付けられていて、学生がいろいろと書きなぐっている。この黒板には数式が書かれていることが多かった。学生が、授業が終わってから黒板を利用して「ああでもない、こうでもない」と議論しているのだろう。私にとってはちんぷんかんぷんで、全く何を記した数式なのか想像もつかないが、いたるところに数字の書きなぐりが見られるのは、数理科学・工学が盛んなMITらしさを象徴している気がする。

また、数式といえば、MITの学生らしい「知的な遊び」も散見された。例えばMITのTシャツのデザインにもなっている次のロゴがある。

$$(1) \quad \frac{e}{c^2} \sqrt{-1} \frac{PV}{nR}$$

これはいったい何を表わす数式だろうか。私は「何となくカッコいい」という理由で、数式の意味をよく理解せず、この数式が書かれたTシャツを買って着ていたところ、ある時エレベーターで一緒になった女性から「この数式は何？」と尋ねられた。私は「知らない、アインシュタインか何かだと思う。」と答えたところ（非常に適当な答えである）、この女性に「知らないのに着ているの？」と言われた。確かにこの女性の言うとおりである。意味も分からず着ていて、実は変な数式ということもありうる。

しかしどうやって数式の意味を確かめればよいのか分からない。そこでエンジニアの弟にメールを書いて尋ねることにした。答えは“MIT”。実はこの数式は3つの数式から成っている。一番目はアインシュタインが特殊相対性理論の帰結として発表した、質量とエネルギーの等価性を表わす関係式  $e=mc^2$  を変形したもので、答えは「m」となる。二番目は「 $\sqrt{-1}$  = 虚数  $i$ 」であり、ゆえに答えは「i」。三番目は理想気体の状態方程式  $PV=nRT$  の変形で、ゆえに答えは「T」。3つ併せてMITになるというわけである。なるほど、よく考えられている。

また、MIT Coopには、“NERD PRIDE”と書かれたシールやシャツなどがよく売られていた。“nerd”というのはいわゆる「オタク」のことだが、少し揶揄して言う言い方である。例えば英英辞書で *nerd* は次のように説明されている。

(2) *Longman Dictionary of Contemporary English* <5th Edition> (Pearson Longman, 2009年) [LDOCE<sup>5</sup>]

nerd (informal)

1. someone who seems only interested in computers and other technical things—used to show disapproval
2. someone who seems very boring and unfashionable, and is not good in social situations

(3) *Collins COBUILD Advanced Dictionary of English* <Seventh Edition> (HarperCollins, 2012年) [COBUILD<sup>7</sup>]

nerd

If you say that someone is a nerd, you mean that they are stupid or ridiculous, especially because they wear unfashionable clothes or show too much interest in computers or science. [INFORMAL, OFFENSIVE, DISAPPROVAL]



つまり、コンピュータおたくで、服装には頓着しない人を揶揄して言う言い方である。確かにMITでそのような感じの学生によく会った。しかし、「それはそれでいいのだ、誇りを持って。」ということである。この数式とNERD PRIDEの2つから、MITの学生気質が何となく分かっていただけるのではないかと考えている。

さて、私がいたMIT Linguistics (MIT言語学)の学生はどんな感じだったかと言えば、基本的には数理科学・工学の学生と同じようなMITらしい学生だったと言えるだろうが、フレンドリーで話しやすい学生が多かったのは確かである。それに加えて、MIT Linguisticsの大学院生に対して私が感心したのは、「己の感覚を最大限に重視する」という姿勢で研究に臨んでいる点である。ある言語現象について分析するとき、私もそうなのだが、過去にその言語現象について述べている論文を片っ端から探し、まずはその論文を読み解いたうえで、過去の論文では説明できない点を考えることから分析を始めていく研究者が多いと思うが、MITの大学院生は、過去の論文に当たるよりも、まず先に言語データとにらめっこし、「自分の頭で」そのデータを分析しようとするところから研究を始める人が多かったように思う。自分で分析していく中で、必要ならば過去の論文を参照していくという姿勢である。よって、過去の論文に振り回されるのではなく、自分のオリジナリティが前面に出る研究となっていく。時に、重要なペーパーを見落としてしまっていることもあるが、多少粗削りであっても、自分のアイデアがしっかりと出た研究になっている。このように創造性に長けた学生の様子を目の当たりにし、私自身、研究の在り方について大いに考えさせられた。私も論文を書くときには創造性を重視し、自分のオリジナルな部分がない論文は書かないが、MITの大学院生が、研究の第一段階から「創造性」を一番に念頭に置いて研究を進めていくのには、驚かされた。現在は絶版になっているが、共同通信社の社員で社命により一年間MITに留

学した方が、MITの留学生活について本を書いており(鳥井良二(2003)『はじける頭脳 MITのすごい奴ら』アートン)、この本にMITの大学院生および研究員がいかにすごいかということが記されているが、私は著者が書いているそれらのすごさは、この「創造性」とは無関係ではないだろうと感じている。

### 3. MIT創立150周年、MIT言語学部創設50周年

私がMITにいた年は、ある意味運が良かった年かもしれない。2011年はMITの創立150周年、そしてMIT Linguisticsの創設50周年の年であった。MIT滞在中、キャンパスのいたるところで、上のロゴを見た。この「+150」というのは、当時のMIT学長スーザン・ホックフィールド(Susan Hockfield)氏が出したコンセプトで、「これまでのMITの150年を回顧するだけではなく、それを踏まえて、これからの150年を考えていく」というものであった。最新のテクノロジーを追究しているMITらしいコンセプトだと思った。



また、2011年はMIT Linguisticsが「学部」として発足して50年の記念の年であり、12月に“Ling 50: Scientific Reunion”と題したイベントが行われた。この記念行事は単なる記念式典や同窓会といった類のものではなく、MIT LinguisticsのPh.D.取得者が一堂に会し、その中から選りすぐりの人たちが、それぞれの言語学の分野の現在の研究と将来の見通しについて話をするという、まるで学会のようなものであった。このLing 50に参加できたのは、MIT LinguisticsのPh.D.取得者と、MIT Linguisticsの関係者のみであった。嬉しいことに、我々客員研究員も参加を許された。各発表者の話はどれもスケールが大きく圧倒されたうえ、何にも増して嬉しかったのは、あのノーム・チョムスキーが講演をしたことであった。チョムスキーの口から直接、現在の生成文法に対する考えを

聞くことができたのは大きな財産である。著名な音韻論学者モリス・ハレ (Morris Halle) 氏 (MIT言語学・哲学学部名誉教授) から、MIT Linguisticsの発足時の苦労と、MITに対する思いを聞いたのも嬉しかった。また、このイベントで、大学院の留学時にお世話になったUCLAの先生方と再会できたのも、嬉しいことであった。MITがこのような記念すべき年であるというのはMITに行ってから知ったのだが、このような年にMITに籍を置くことができたのは、非常に幸運であった。

#### 4. チョムスキー氏とのアポイントメント

MIT滞在中は、MITおよびハーバード大学 (Harvard University) の理論言語学関係の授業に出席して、学生や教員および他の客員研究員と議論するとともに、MITやHarvardの教授とアポイントメントを取り、研究についていろいろ話をしたが、中でも一番忘れられないのは、帰国前の2月末に行ったノーム・チョムスキー氏とのアポイントメントである。

チョムスキー氏はMITやその他の大学の大学院生や言語学者とのアポイントメント、そして氏は政治の分野でも重要な提言を数多く行っていることから、政治分野の人たちとのアポイントメントで忙しく、MITの大学院生でもなかなかアポイントメントを取ることができないと言っていた。私もチョムスキー氏と研究の話をさせていただきたいと思い、アポイントメントのお願いをしようと思いつつも、「今の段階でチョムスキーに話をするなんて申し訳ない、もっと研究が進んでからでなければ…」などと変な緊張感を抱き、早くチョムスキーに会いたいと思いつつも、なかなかその一步が踏み出せない…という、憧れの人に会うとき誰もが持つであろう感覚に陥った。しかし早くアポイントメントのお願いをしなければ、MIT滞在中にチョムスキーと話をするという夢をかなえられない。そもそも、大学院生のアポイントメントでも忙しい中、客員研究員に会っていただけ

かどうか分からない。そこで思い切って12月にチョムスキー氏にアポイントメントをお願いするメールを書いたところ、会ってくださるという返事をいただいた。チョムスキー氏から返事をいただいたときは、天にも昇る心地であった。秘書の方と日程を打ち合わせ、帰国前の2月末にチョムスキー氏と会うことになった。

チョムスキー氏とのアポイントメントは忘れられないものとなった。チョムスキー氏は初めはざっくばらんにこやかに話をしていたが、いざ私が研究の話を始めると、顔から笑顔が消え、鋭い顔になり、緊張感が走って、部屋の空気が変わるのが分かった。のっけから議論を吹っかけてくる。私が自分の理論モデルを説明している途中から、私が言いたいことが見えてきて、私が言い終わらないうちにすぐ質問や反論をしてくるのである。その質問や反論がまた鋭い。そのうえ、チョムスキー氏は自分が納得しなければ“I don't get it.”と言って、先に進んではくれない。私は緊張から背中を汗びっしょりにしながら、必死でチョムスキー氏の反論に対して、答えを用意した。しかし中にはあまりにも鋭くてすぐには答えられない質問もある。それに対しても、何とか自分なりにその場で考えたアイデアを説明した。結局30分のアポイントメントの予定が1時間になり、秘書の方が時間だと呼びに来た。研究の話をしていた時は笑顔一つ見せず、眉間にしわを寄せてとても鋭いチョムスキー氏だったが、研究の話が終わるとまた笑顔を見せ、時間がなかったため数分であったが、気軽に話をしてくださった。研究の話をしているときの様子では、とてもチョムスキー氏にサインをお願いしたり、写真を一緒に撮ってもらえたりする雰囲気ではなかったが、この笑顔を見ることができたため、チョムスキーが最初に出版した本 *Syntactic Structures* にサインをしてもらい、写真を一緒に撮ってもらった (写真では、私がさうとう緊張している様子が分かる)。このサイン入りの本と写真は、現在の私の宝物である。83歳になってもなお鋭

いチョムスキー氏の姿を目の当たりにし、生成文法の創始者であるチョムスキーのすごさを改めて実感させられた。



写真2 チョムスキー氏のオフィスで  
(このたび、チョムスキー氏に写真の  
掲載許可をいただいた)

## 5. まとめ

以上、一年間のMIT滞在期間に印象的であった事柄について書き記した。一年は本当に短くあっという間だった。「もう一年MITで研究したかった」というのが本音だが、もちろんそんなことは許されるわけもない。しかし冒頭に記したとおり、このような貴重な一年を過ごさせてくれた愛知大学に本当に感謝している。また、MITでお世話になった教授陣、とりわけProf. Shigeru Miyagawa, Prof. Norvin Richards, Prof. Danny Fox、そしてHarvardのProf. James C.-T. Huang、およびMITの大学院生にもたいへん感謝している。

MITがあるケンブリッジ (Cambridge) はボストン (Boston) の中心部から近く、中心部から地下鉄で行くことができる。また地下鉄でさらに2駅北へ行けば、Humanities (人文科学) の研究で有名なHarvard Universityに行くことができる。ぜひ学生諸君もボストンに行く機会があれば、ケンブリッジまで足を延ばして、MITおよびHarvardのキャンパスを訪れていただき、日本の大学とのキャンパスの雰囲気の違いを肌で感じるとともに、カフェテリアでランチでも食べながら、アメリカの大学生・大学院生の様子を垣間見ていただきたい。

## 明治は遠くなりになり

### －言葉の旅－

‘働くこと’と‘休むこと’の意味(補1)

経済学部 葛谷 登

1968年は明治百年の年でした。それは水俣病の原因が厚生省により発表され、東大入試の中止が決定され、プラハの春の花が咲いたかと思うと散った年でもあります(岩波書店『日本史年表増補版』320～321頁)。そして今年、2012年は明治百五十年まであと6年というところまで来ています。振り返れば、明治は益々遠い過去の世界になろうとしています。今や先進国の日本は経済競争において世界の先頭集団を走っています。最早、国内には日本が近代化を遂げたことを疑う人は少ないかも知れません。生活はコンピューターによって高度にシステム化され、一見快適な日常を生きていることが可能な世の中となりました。大量の資源と大量のエネルギーを消費して大量の財を生産した挙句、その生産物を大量に消費させられる時代になりました。資本主義社会は高度に発達し、日本の近代化は完成されたように見えます。法令順守 (compliance) が強く求められる今日では、世界標準は細分化と具体化の一途を辿り、個人が主体的な判断をもって倫理的に行動する余地がどんどん狭まって行くように見えます。

日本が米国と英国並びに中国に敗れた1945年8月15日以降から池田内閣により所得倍增計画が決定された1960年12月27日以前までは様相を異にしました。圧倒的な物量の前に米国に敗北を喫したという反省から生産力をいかに発展させるか、言い換えればいかに綻びだらけの資本主義社会を繕いかに未成熟の近代社会を完成させるかが取り組むべき課題として考えられたのではないのでしょうか。

そのような問題意識を有したかと思われる一人に日本における西欧経済史研究で人間の内面

性を重視し先駆的業績を成した大塚久雄先生がいます。内村鑑三の薫陶を受けたキリスト者であった彼の『近代化の人間の基礎』（筑摩叢書、1968年）という著作にはそのような視点が貫かれているようです。敗戦後1年も経過せぬ1946年4月11日に書かれた「近代的人間類型の創出」という論文の中で彼は次のように述べています。

…こうした経済民主化の方向を推進するところの政治的主体が十全に形造られ得るためには、…民衆が——この民衆がという点がなによりも重要である——広く近代的、民主的な人間類型に打ち出されていなければならないということである（傍点、筆者注。以下同じ）（12頁）。

経済の近代化を遂行するためには民衆の近代化が前提となるということでしょう。

わが国民衆の示しつつある人間類型は、…少なくとも近代「以前」的のものであるということは殆んど説明を要しないことであろう。……民衆は自らの人格的尊厳を内面的に自覚するに至らなければならない。そして近代「以前」的な自然法の如きを外側から与えられずとも、自ら自律的に前向きの社会の秩序を維持し、もって公共の福祉を促進してゆきうるような「自由な民衆」とならねばならない。…「自由なる民衆」こそ近代生産力の決定的要因なのである。近代生産力それ自身である（13-15頁）。

近代的な生産力を十全に展開して行くために生産者たる民衆の内面的自覚の深化が不可欠であるということでしょうか。

この論文の1か月後の5月に書かれた「生産力における東洋と西洋」という文章の中で彼は次のように述べています。

なによりも必要なのは生産諸力の主体的要因たる勤労民衆（労働力）を、旧き段階の人間類型から真に近代的な生産力的な人間類型へと「教育し行く」——もとより最広義において——ことが第一の、最大の条件であろうと思う（216頁）。

資本主義的な生産を発展させるためには生産力の主体としての民衆を内側から変革して行かなければならないという同一の主張が展開されています。

更にその4か月後の9月に書かれた「魔術からの解放」という論文の中では次のように述べられています。

たとえば、あらゆる迫害と危険のうちにあってかの免罪符の販売を黙視しえなかったマルティン・ルッターの罪責感の深刻さと良心の鋭さ。…この「良心」の自覚による内面的意識の深化は、さらにジャン・カルヴァンの流れを汲むカルヴィニズムと、そしてバプティズムとの絡み合う禁欲的プロテスタンティズムの精神的雰囲気のうちに至ってついに徹底化される（93-94頁。—但し、管見によれば、キリストによる十字架上の贖罪以外に地上に罪を免れさせるものはあり得ないとするキリスト教では「免罪符」という名称は存在しません。石井祥裕「免罪符」によれば、「罪に対して課せられた有限な罪の免除を意味するものであるため、正確には『償符』と訳すべきもの」（研究社『新カトリック大事典』第4巻、982頁）です）。

内的我意識の深まりは禁欲的なプロテスタンティズムによって究極まで推し進められるということなのでしょうか。

要するに、「内面的エートス（人間類型）の民衆的確立」（「ロビンソン・クルーソーの人間類型」、1947年8月、80頁）のためにはキリスト教、とりわけ禁欲的なプロテスタンティズムが日本の社会に浸透して行くことが期待されるでしょう。戦後間もない頃にはすでに資本主義社会は存在しています。しかし、生産力の主体としての民衆の意識は前近代的なものであり、それが生産力の拡大と発展にとって桎梏となっているという現実認識があり、それに基づいて民衆をキリスト教の中の禁欲のプロテスタンティズムに出会わせることによって、民衆の



中に近代的生産に適合する内的主体を確立させることが可能であり、またそれが必要であるとの沸沸たる思いを大塚久雄先生はお持ちであったのではないのでしょうか。しかし、戦後この方今に至るまで、禁欲的なプロテスタンティズムが日本の民衆の内的世界に広く深く受け容れられて行った、という形跡は見出し難いようです。そればかりか現状は世俗主義（secularism）が拡大と深化の一途を辿っています。

1868年の明治維新に遡りたいと思います。士農工商の身分制によって秩序づけられた封建的幕藩体制は幕を閉じました。新たに呱呱の声をあげた明治国家は四民平等の近代国家を目指すものでした。近代国家に生まれ変わるためには政治的には議会制民主主義を導入し、また経済的には大々的に機械制大工業を展開させて産業革命を遂行しなければなりません。明治初年にはこのいずれも無い状態でした。

議会制民主主義の導入も機械制大工業の展開もモデルは西洋にあり、西洋の人々の力を借りなければなりません。旧い体制は倒れたものの、新しい体制はまだこれから仕上げて行かなければならない状態でした。明治維新以後、日本には堰を切ったように西洋文明が入って来ました。それらを受け容れるにあたっては、自らをも変えなければなりませんでした。男は三百年この方近く頭の上に鎮座しましたちょんまげを切り、侍は袴袴を脱ぎ捨てて洋服に着替え、腰に差していた刀と別れ別れにならなければなりませんでした。大転換の幕開けでした。

これらの明治以降の大規模な西洋文明の流入よりも早くに幕末の1858年（安政5年）7月29日に日米通商条約第8条により居留地内での信教の自由が認められ（教文館『日本キリスト教史年表』、29頁）、一定の空間的制限のもとに宣教師ヘボン等によって伝えられたキリスト教は、1873年（明治6年）2月24日にキリシタン禁制の高札が撤去されて（同年表、34頁）以後、公然と伝道活動が出来るようになりました。西洋文明の表層に浮き出、はたまた奥底に沈み込む

キリスト教は、西洋文明と一体の観があります。というのも、平等な社会を前提とする議会制民主主義の理念は、万人祭司主義のもとに議会制度における平等の教理を前面に押し出すところのキリスト教のプロテスタンティズムの見方と重なり合うものがあります。また機械制大工業の体系の中で働く労働者の職業倫理は、救済に関する予定の教理に立って信徒が恐れ戦きつつ労働に励むところのカルヴァニズムによって根柢づけられ得るものだからです。

ここに西洋文明の外皮だけではなく、内実をも進んで自らの中に取り込むことを通して日本の近代化を推し進め西洋に追いつこうとする考え方が生じます。遅れて近代国家の仲間に入った日本が西洋との距離を縮めこれを零にするためには、目に見えるところの西洋文明の中の外在化されたものだけではなく、目に見えないところの内在化されたものをも併せて受容しなければならぬというものです。

果たして幕末から明治の草創期にかけてキリスト教と正面から向き合い、そのことを通して日本の近代化を考えようとした知識人がいました。森有礼や中村正直等がその人たちです。森有礼とキリスト教との関わりについては以前より些か興味を覚えるところでしたが、キリスト者としての中村正直については中国思想史研究の立場からの『『敬天愛人』の系譜』（『東洋文化』第4号、2009年）などの高論があらわれる野村純代先生の中村正直に関する研究を通して初めて多く学ばせていただくことが出来ました。記して感謝するものです。

中村正直（1832-1891）の伝記としては高橋昌郎先生による評伝『中村敬字』（吉川弘文館人物叢書、1966年第1版、1983年新装版）があります。それによれば、彼は幕末には「御儒者」として江戸幕府に仕え、維新後は明治政府から東京大学教授に任ぜられるなど、当時の日本の最高の知性の持ち主でした。彼は1874年（明治7年）12月25日に不惑を過ぎてカナダ・メソディスト教会の宣教師コ克蘭より洗礼を受け（132

頁)、その翌年には1854年に中国で出版されたマーティン著『天道溯原』に訓点を施したものを世に出しています(136頁)。わたくしは早川勇先生の入手されたものを過日見させていただく恩恵に与ることが出来ました。

翻訳としてはJ.S. ミル『自由之理』(1872年)、スマイルズ『西国立志編』(1871年)が有名です。‘liberty’の訳語が「自由」に落ち着くのは中村の前者の訳本に負う所が大きいのではないのでしょうか。佐藤亨『幕末・明治初期漢語辞典』(明治書院、2007年)によれば、中村の訳語はロブシャイト『英華辞典』の記述に影響されているようです(400-401頁)。中村は後に『英華和訳辞典』(1879年)の校正者としてこの辞書に関わります。—この辞書は綺羅星の如き業績を残して世を去った那須雅之先生が監修者となって復刻版を大空社からお出しです。中村は「自由之理序」の中で、「窃に嘆ず、東洋諸邦の人民、往往にして神を知らず、而して唯務めて人と角う。故に人を愛するの心、毎に広からず深からずを病う。」(近代日本思想体系『明治思想集I』(松本三之介編集、筑摩書房、1976年、39-40頁)と述べています。ミルの自由論の訳出もまた彼のキリスト教信仰に促される形でなされたことと見ることは出来ないだろうかと思えるものです。

ただ、わたくしは彼のキリスト教信仰の真骨頂はスマイルズの『セルフ・ヘルプ』の翻訳『西国立志編』にあるように思います。同書は平川祐弘『天ハ自ラ助クルモノヲ助ク』(名古屋大学出版会、2006年)によれば、それは「訳者中村の名声とそれにふさわしい文体の力もあいまって、明治時代を通して最大のベストセラーと化した。」(5頁)というものであり、明治の青年に偉大な感化力を及ぼしたようです。講談社学術文庫版に附された渡部昇一先生の「中村正直とサミュエル・スマイルズ」によれば、「それまでの伝記と言え、たいてい王様や将軍や貴族や文人のものであったが、スマイルズは主として、ふつうの市民で一業を成した人の伝記

を実証的に入念にえがくという分野を切りひらいた。」(講談社『西国立志編』、1991年、551-552頁)とあります。中村正直は無名の市民の生き方に価値を認めたのです。

明治維新により身分制は崩壊しました。身分ごとの道徳や倫理はその意味を失います。士、農、工、商の垣根を取り除いて新たに誕生させられた「国民」が共有する道徳や倫理が求められます。近代国家体系下で移転の自由を付与される農民は膨張する都市に吸い込まれ、工場の中で無名の市民として機械制大工業を支えます。近代的な生産の展開のためには近代の人間の内面が形成されなくてはなりません。というのも、彼らは議会制民主主義を機能させて行くために必要な選挙主体としても重要な存在として期待されるからです。

中村正直は英国人の自主自立の精神の背後に、『西国立志編』において「上帝」という語で登場するキリスト教の神への堅固な信仰があるのを見て取ったのではないのでしょうか。この神への信仰を支柱とする自主自立の精神こそ近代日本を建設する主体としての民衆に期待されるべきエートスとして彼の心を捉えずにはいなかったのではないかと思います。

夫レ富强ノ原ハ國ニ仁人勇士多キニ由ル。

仁人勇士多ク出ヅル所以之者ハ、教法ノ信、心望心愛心ニ由ルニ非ザル者莫シ。

(1871年明治4年「敬字先生上書是非」『思想篇』日本評論社『明治文化全集』第23巻、226頁)

中村正直は新しい明治国家の建設には新しい「国民」の創出を必要とする、それには「信心望心愛心」を生み出すところの大本の教を「国民」と呼ばれるべき人々に説かねばならない、と考えたはずで。『西国立志編』はそのような教を自らのエートスとした人々の格闘の物語です。彼はこれらの物語を通して若い人々の内側に「国民」としてのエートスが形造られるように祈る思いで『西国立志編』を訳出したのではないのでしょうか。ご教示を仰ぎます。

## Living in another country: A trip of self-discovery

By Nicholas Bradley

Living overseas is a great way to learn a language and learn about a culture. When you live overseas to study or work for an



extended period of time, you also learn a lot about yourself. People considering living overseas often do not think about this benefit when thinking about their trip.

Living overseas to study and work has been one of the best decisions I have made. Living overseas has taught me so much about the world but it also taught me so much about myself. In your home country or city, you may never think very much about your actions or the actions of others. However, when you go to a new place where everyone does things differently, you always find yourself saying “I never realized I did that” or “I never thought about doing it like that”. What you like, how you do things, and who you truly are all become much clearer when you live overseas. For me, discovering myself was as much a discovery as ‘discovering’ the sights and smells of New York or witnessing a sun dance at Chichen Itza.

Moving out of your cultural comfort zone really tells you something about yourself; therefore I was very interested to learn about a beautiful Buddhist monastery called Sogenji in Okayama

City. This monastery is unique in Japan because it is populated almost entirely by non-Japanese. Coming to Japan to live in a Rinzai Zen Buddhist monastery seemed to me to be a huge leap into the unknown and I was curious to discover what lead people to do this and, having made this huge change to their life, what advice they could they offer students considering a move overseas and learning another language.

On a hot and humid day in August with the cicadas crying and the sun shining, I sat on a porch at Sogenji with two of its residents, Toon from Belgium and Ryan from America. Together we talked about life in Sogenji, life in Japan and living overseas. Here are some excerpts from our conversation.



Toon from Belgium (left) and Ryan from America (right).

### **N: Are you monks?**

T: No. Most of the people are lay people. Those people can take some vows, but monks are one step more; one step more towards the roshi (Abbot).

R: *We're just trainees.*

T: Yeah, we're just trainees: koji's. That's the Japanese name for us: koji's.

**N: How long have you been at Sogenji.**

T: Almost 2 years.

**N: How long do you plan on staying?**

T: We don't know how long we will stay here because it's up to the roshi. He says you stay here as long as it takes to be "realised". We stick to our plan and then we see if we are going to make it.

My plan is to stay here 3 years and a half in total. I will return in February 2014.

**N: What plans do you have for when you return?**

T: I'm a sports teacher so I can easily go and work in a school again, or somewhere else. So that's no problem.

**N: How did you find out about Sogenji?**

T: That's a funny story..... I saw it on television.

N: Really?

T: Yeah, there was a Belgian guy here (at Sogenji) and there was a documentary about all religions in the world, and a Belgian reporter came here to visit the Belgian guy and I saw the whole episode about here, about Sogenji. I was like, "you know, I can do that, I can go there". Then, for 3 weeks, I couldn't forget about it and I bought a ticket for Japan, not even having contacted Sogenji or knowing if I was allowed here. So, I contacted the Belgian guy and he put me in touch with Sogenji. Then I saw the roshi and that's how I got here.

**N: Before you came here, had you had any experience of monastic life or Buddhism?**

T: No. I had some experience with sitting and doing meditation, but it was very little. In the documentary, it said they sat for 4 hours and I said "I have to train; I have to get ready for this". So I started to sit for 2 hours in a row and my legs were hurting like hell. Then I came here and it was only for periods of half an hour, so it shows you how little I knew about Buddhism and the whole form of zazen (seated cross legged zen meditation).



**N: What other expectations did you have about life in Sogenji?**

T: None. I am always like that. Basically, I have no expectations and I go somewhere and I see how it goes. I had a plan, something like staying for a year, and then I will decide if I'm going to stay longer or not.

**N: Can you tell me about your typical day in Sogenji?**

T: We generally wake up at 3:40 or 3:30, something like that. Then its sutra reading in the hall. Well, its actually more like yelling than reading; we have to chant the sutras. And



about 5:30 we meditate and we also have zazen with the roshi; we have an interview with the roshi. At 7 o'clock we have breakfast and after breakfast we go outside and we have outside cleaning. We clean the grounds then at 8:30 we go inside for inside cleaning and we have a break until 9:30. Then we start working. All the people have a job here: inside the temple or the kitchen, or the garden, or any job. At 1 in the afternoon we eat lunch then we have free time until 6:30. Then we sit zazen until 8:30. Then at 9 o'clock we have an evening sutra in the genkan. And that's our day!

Then most people go to bed. Sometimes people do evening meditation. I don't know how long they do it. Some people do it at 2 at night. Eventually, everyone goes to sleep.

**N: So you only get a few hours sleep?**

T: Yeah, not so much. It's about 5 hours, not so much.

**N: Do you get used to it?**

T: You get used to it and also, meditation gives you energy. It keeps you awake. You're tired, but it keeps you awake. It's difficult to explain. It's a different kind of being awake.

**N: So everyone has their own job? What's your job?**

T: I get different tasks from the head monk: gather leaves in the cemetery, cut bushes, preparation, anything.

**N: What do you usually eat?**

T: They usually say food in a monastery is really bad, but here, everyday, it is a different cook

and everyone can cook. There are no bad cooks here. Every meal is vegetarian, but it changes. We eat all kinds of dishes. We have people from Israel here and they make humus and falafel and pita bread. So everyone brings their own culture here. Also, people from India, they have delicious curries.

*R: But there is a form. You have to have miso soup and rice. Always brown rice with soy beans, and at lunch it's always white rice and soup and other side dishes.*

T: Yeah, there always has to be rice and soup on the table with the side dishes.

**N: Do you grow any food here?**

T: Yeah, we have a garden.

*R: The reason we have side dishes is because we receive so many donations. We don't need to grow much.*

T: Two people have a food market and they donate whatever they don't sell. Sometimes it's too much.

**N: What is your favourite thing about life here?**

T: For me, it's the result of the meditation. It's like a cleansing. The result of that, it's indescribable. We are tired, but at the same time, we are full of energy.

**N: Is there anything particularly difficult about life here?**

T: The schedule. Every day is the same thing and there are a lot of rules here, but the rules are important for your concentration. If you're here a long time and you live in this community; you're always with the same people. It's a

very intense way of getting to know yourself because people are from all corners and they push your buttons. In the outside world, if you don't like someone, you just avoid them. But here, it's impossible. You have to find a way to make it work and that's how you really get to know yourself.



**N: I have been told that Rinzai Zen is very strict. Is it true?**

T: It is, it is. But..., this is a western monastery, so for starters, there are women here.

R: *It can be very strict, but that usually only comes from the roshi.*

**N: How many trainees are there here at Sogenji? Where are they from?**

R: *About 20. America, Belgium, France, Hungary, Taiwan, Japan, Poland.....*

T: Oh, Israel of course.

R: *...Argentina...*

T: Mexico already left. Some people just come for a few months.

R: *....Canada, Denmark.....*

T: ...and the Netherlands and Germany.....

But no England, they don't come here. I don't know why.

**N: What kind of commitment do people need to make when they come?**

R: *1 or 2 years.*

T: But that's changing. People who come now have to stick around until they are finished. Until the roshi says....

R: *But to get permission...at least 1 or 2 years.*

T: It's changing because the roshi is getting older, he is 74 years old. It's getting tougher for him to give all his energy to his training, so he wants to give it to people who stick around. Some people stick around for 20 years and then they go and teach.

R: *Or they stay here.*

**N: Do some people come to Sogenji and find that it is not for them and leave early?**

R: *Everyone after me....it's been a constant rotation. Some people decided that they would only come for a short time, but some people cut it short or cut it very short. Or it wasn't decided by them and they were....let go.*

**N: Is there anything in particular that causes people to leave early?**

T: It varies. For some people, its psychological problems or physical problems; too much pain in their legs. One guy from Sicily got a phone call from home and left because of family problems. All sorts of things.

R: *Money is an issue. Some people don't have enough money to come back after they have left.*

T: But sometimes the roshi will pay.



**N: So is Sogenji free? Do you have to pay anything?**

T: No, we don't have to pay anything. Once there was a guy here, a rich guy, and he wanted to give a lot of money to the roshi but the roshi refused. He said "I only want you to train here". I also thought I was going to give him a lot of money because I sit here, I get beautiful training, I get food everyday, I get a bed, well....I don't sleep on a bed but....and I don't have to pay anything! We even get money!

*R: It's an allowance.*

T: It's pretty weird for me, from a western view.

**N: Is Sogenji supported by donations?**

T: Most of the time yeah.

*R: They do begging for alms, but it is not so much. Also, the roshi goes out to do sutras and that brings them money but....*

T: Yeah, he has money but we don't know where it comes from.

**N: Is your family Buddhist?**

T: My family is Catholic. My grandmother is a very strong Catholic. My parents are not so strong Catholics.

**N: Now did they react when you told them you were going to live in a Buddhist monastery in Japan?**

T: They were not so happy. Not because I was going to live in a monastery but because I was going to live on the other side of the world. But they came here in April and now they are..... less concerned. They were impressed. They had a whole different view after their visit.

**N: Why did you choose Buddhism over Catholicism?**

T: Because I have never been a strong Catholic. For me, it was lacking some deeper profound practice, like understanding what life was. There is only one way to answer questions and that is silence. You just shut up and watch your thoughts go by and you just see it, you experience it. And that's how I came to meditation. That was something that Catholicism was not offering me. It was just giving me more rules of how I should behave.

**N: What languages can you speak?**

*R: Japanese and English*

T: English, Flemish and a little bit of French and a little Portuguese.

**N: What is the language of communication in Sogenji?**

T: English.

*R: With a little bit of Japanese mixed in. We use some Japanese names for things and simple things.*

**N: Are people required to speak Japanese once they have been here for a while?**

*R: In terms of rules, it's not formal, but some people expect you too.*

*T: They encourage it. There are Japanese classes by a teacher who comes here. I haven't attended them. I don't speak Japanese. I know some words that I have picked up working in the kitchens and around.*

*R: I studied at high school and college. But actually here, I use it more. Even if I don't speak it a lot I hear it from listening to the roshi and I can understand more and more. So I learned most through...it being all around...*



**N: From immersion?**

*R: Yeah, immersion in the language.*

**N: Toon, what helped you the most when you were learning English?**

*T: I learnt the most from watching television with subtitles. I learned English in high school, but I learnt the most from television.*

**N: Is this your first time in Japan?**

*T: Yeah.*

**N: Do you get chance to go out into the wider Japanese community?**

*T: Three days a month are free days and sometime in the afternoon is also free so people can go out. People go shopping, people go eating, people go wherever they feel like.....go walking, go biking.... So we do, but there's nobody who goes out to a bar drinking.*

*R: If your family comes, you can travel a little.*

**N: What do you think about Japanese culture?**

*T: What's different for me is the whole rigid way of behaving of Japanese. Something I need to get used to.*

*I visited some schools, they play tunes and then all the kids do and say things in unison, in one voice. It's something you don't see or hear in Belgium, it's impossible. It's like a machine. No kid sticks out or stands out. There isn't much room for creativity or originality. It's something I need to get used to because for me it's a bit scary.*

**N: Anything you respect about Japanese culture or Japan?**

*T: For me, what I am really impressed by is the community, the solidarity of Japanese. They stick together. It's connected to what I just talked about. It's amazing but I guess it has 2 sides.*

*R: I came to Japan 2 or 3 years ago through Waseda University. I lived with a family there. And before I came the whole build up of coming to Japan, I was interested in the culture from everything from cartoons to the food... everything. But now I am here and things..... well aren't as interesting I guess. Seeing a family, a Tokyo family from the inside, how similar it was to what I grew up with....it was*



*a real wake up. Once you know what to look for in a culture, you see how it's kind of the same but you just have to see it as a different manifestation.*

**N: You both came from overseas to live in Japan. Do you have any advice for students leaving Japan and going to live in another country?**

*R: Adapting to a culture can be painful but don't avoid the painful things. Try to learn from them as much as you can. Be patient.*

**T: The fewer expectations you have, the less painful it will be. The idea that attracts you to a place is just an idea. Just say "What ever comes comes, and I will deal with it".**

## Language Café



豊橋校舎では文学部等の主催で本年4月より Language Café が開催されています。

英語・フランス語・中国語のネイティブの先生との会話やゲームなどを通じてフレッシュな会話を楽しんでいます。

皆さんもぜひ一度のぞいてみてください。

☆ 英語・フランス語・中国語

☆ 3号館1階 ランゲージセンター

開催曜日・時間等詳細については豊橋語学教育研究室へお問い合わせください。

## 英語 e-learning で

**TOEIC テスト得点 UP を！！**

アルク ネットアカデミー  
ALC NetAcademy 2



### のご案内

ALC NetAcademy 2は学内のサーバに教材を置いて、ネットワークを通じて教材を提供するシステムです。

皆さんはコンピュータを利用して、WWWブラウザで学習を行うことができます。

この学習システムは、パソコンの利点をうまく活用すると共に、多彩なマルチメディア機能とインタラクティブ性を活かし、効果的な語学学習をすることができます。

利用料は無料で、在学中利用できます。学内はもちろん自宅からの接続もOKです。

利用時間も24時間対応していますので、自宅のPCで皆さんの好きな時間に学習をすることができます。

利用にあたっては英語e-learning専用のアカウントとパスワードが必要となります。

語学クラスごとのガイダンスを実施していますが、個人向けガイダンスも適宜受け付けていますので、気軽に申し込んでください。

### <コースの概要>

#### スタンダードコース

初級者から上級者まで幅広いレベルの学習者に対応（レベル診断テスト付き）

TOEIC®テストに対応

話速変換機能で速聴力を養成

異なるパターンの練習で速読力を養成

文法リファレンスで文法事項を確認

#### 初・中級コースプラス

初級・中級者向けのTOEIC®テスト対策コース

2006年5月リニューアルの新TOEIC®に対応（900問を用意しています）

話速変換機能で速聴力を養成

異なるパターンの練習で速読力を養成

段階的な学習でTOEIC®テストスコアアップ

文法リファレンスで文法事項を再確認

利用申込み先

名古屋語学教育研究室

豊橋語学教育研究室

厚生棟4階

3号館1階

## 2011年度 第17回 外国語コンテスト（名古屋校舎）



であったと総括するのにふさわしいコンテストとなりました。

（石原 知英）

### 英語部門

2011年度外国語コンテスト英語部門は、12月1日（木）の午後に実施され、8名の参加者が自作の英語スピーチを発表しました。

審査委員には、ジョン・ハミルトン先生、ディビッド・トゥイー先生、ニック・ブラッドリー先生の3名をお迎えし、スピーチの内容、表現の正確さ、発音の流暢さ、プレゼンテーションのスキルの観点から、評価をして頂きました。

審査の結果、入選者は以下の通りとなりました。

- 1位 09J1244 原田知沙
- 2位 11C8064 岸里佳
- 3位 10M3050 木村貴仁

原田さんのスピーチは“Voter Turnout of Younger Generation”というタイトルで、若者の投票率の低さについて、その原因と解決策を提案するものでした。丁寧な論述と正確で効果的な表現で、ゼミで学んでいるテーマを分かりやすく伝えることができた点が評価されました。

岸さんのスピーチは“My British Friend”というタイトルで、ボーイスカウトの活動を通して知り合ったキャメロンくんとの交流を、多くの具体的なやり取りを通して描くものでした。明瞭で聞きとりやすい発音と、豊かなジェスチャーが評価されました。

木村くんのスピーチは“A Miracle”というタイトルで、叔母の身に起きた現実の出来事を、奇跡の出会いの物語としてまとめたものでした。ロマンチックで暖かい物語を、分かりやすく伝えた点が評価されました。

入賞者以外のスピーチも、それぞれに完成度が高く、また個性豊かなものでした。ブラッドリー先生が総評で述べられたように、全員が winners

### ドイツ語部門

2011年度の名古屋語学教育研究室主催第17回外国語コンテスト・ドイツ語部門の本選が、2011年11月29日（火曜日）の午後4時40分より名古屋校舎中央教室棟3階にある第1研修室でおこなわれました。その結果を報告したいと思います。

今回の課題は、人気のあるグリムの童話から、“Hänsel und Gretel”（『ヘンゼルとグレーテル』）を選びました。内容は、皆さんご存知のことと思います。残念ながら時間の制約があり、その冒頭のほんの一部ということにはなりました。それでも学生の皆さんにとってはなかなか歯ごたえのある内容です。参加者は14名と、ドイツ語部門としてはかなりの人数が集まりました。

審査にあたったのは、ドイツ語の授業をお願いしている鶴田涼子先生と山尾涼先生、それから経営学部所属のドイツ語担当教員である私の3人で、表現力と発音・アクセントの合計点で審査をおこないました。

短いテキストではありますが、授業であつたことのないものであり、それなりの準備と練習が必要です。基本となる発音・アクセントの確かさはもちろんのこと、現代では使われない少し古い表現もあります。そうした困難にもかかわらず参加者は各自で熱心に練習に取り組んだ様子で、その完成度を高いレベルで競う結果になりました。参加者いずれも優劣つけがたく頭を悩ませましたが、残念ながらわずかの差で順位を決めざるを得ませんでした。結果は、第一位（優勝）岩田寿紀（11M3292）、第二位森俊滋（11M3554）、第三位原田知沙さん（09J1244）となりました。

これが、みよし市にあるキャンパスでの最後のコンテストになります、今まで協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。次回から新しいキャンパスでの開催になり、規模、内容ともより充実したものとしたいと願っています。

(島田 了)

## フランス語部門

2011年度のフランス語部門のコンテストは11月28日(月曜日)に名古屋校舎の中央教室棟3階の第1研修室にて16時40分から実施された。みよし校舎で行われる最後のコンテストであるが、感傷に浸ることなく、例年通り、国際コミュニケーション学部 of ラッセン先生に審査委員長を務めていただき、厳正な審査のもと、コンテストが開始された。

みよし校舎最後のコンテストということでフランス語担当者も積極的に学生たちに参加を勧めたところ、21名の応募があった。2年生が4名、1年生が17名であったが、2年生の中には昨年の入賞者もいたので、1年生の苦戦が予想された。

今年も例年通り、予選と本選に分けて行い、課題の朗読を行ってもらった。今年は1年生と2年生以上で、課題を分けることにした。予選ではちょうどコンテストが行われている時期に授業で習っている箇所の朗読をしてもらった。

まずは予選において、6名の学生に絞られた。2年生2名、1年生4名でこの6名で決戦をすることになった。決戦用の課題はこのところやや難しすぎる傾向にあったので、今年は思い切って、できるだけ平易で基本的な単語の発音が正確にできるか、リエゾンなどは正確にできるかを判定できるような課題を選んだ。

21名の参加者から精選された6名の決戦進出者だけあって、甲乙つけがたい熱戦になったが、結果的には、1年生が1位から3位までを独占することとなった。

11J1266 高瀬 裕介

11M3629 中村 優介

11M3117 光岡 優輝

高瀬君は参加者の中でも群を抜いてすばらしい発音で、発音ミスがほとんどないばかりか、プロゾディ全体もとても1年生とは思えない安定した発表であった。2位の中村君も非常に優れた発音で、とりわけ落ち着いた発表の姿が評価された。3位の光岡君も上位二人と遜色のないほど優れた

発表であったが、いくつか発音のミスが見られたのが残念であった。それさえなければ順位は入れ替わっていたかもしれないほどである。

2012年度からは笹島の新キャンパスにて、国際コミュニケーション学部と経済学部の学生も交えてのコンテストとなる。いずれの学部のどの学年の学生も、お互いに切磋琢磨しあって、結果にこだわることなく、フランス語の勉強を楽しんでほしいと願っている。

(中尾 浩)

## 中国語部門 (法・経営学部)

第17回外国語コンテスト中国語 法学部・経営学部部門が、2011年11月28日(月)午後4時50分より、旧名古屋校舎中央教室棟3階第1研修室にて行われました。参加者は、3年生以上が8名、2年生が21名、1年生が4名の、計33名でした。

今回も課題文の朗読で、基礎部門(「入門・基礎」履修中の学生)と応用部門(「応用・発展・演習」履修中の学生)とに分けて行いました。基礎部門は「わたしは大学一年生です」という自己紹介文を、ピンイン(中国語発音記号)に従って朗読してもらいました。一方、応用部門は「旧正月前にぎやかな中国の雰囲気語る」という内容の文章を、こちらはピンインなしで朗読してもらいました。

両部門の評価基準は、いずれも第一に発音の正しさにあります。その他に、文章の区切り、強弱のつけ方や速度などが適切でスムーズであるかをみました。会場は熱気にあふれ、みな最後まで熱心に発表を聴いていました。

審査員は経営学部の矢田博士先生と法学部の鄭が担当しました。厳正な審査によって、下記の学生を入賞者として決定しました。

第1位 07M3217 小澤 寛記

第2位 11M3154 渡邊 友梨

第3位 10M3523 松本 迪子

第1位に入賞した小澤寛記さんは、きれいな発音と朗読のスムーズな流れという点が特に優れていて、課題文まで暗記してくれました。彼は上海復旦大学での一年間の留学生生活を終えたばかりで、みんなに留学から得た大きな成果を披露することができ、会場からもたくさんの称賛の聲が送られました。

第2位の渡邊友梨さんは落ち着いた丁寧な朗読

と正確な発音が印象的でした。2011年度からのカリキュラム改革で、1年生の中国語の授業がこれまでの週1回から週2回に変更したこともあり、今年の1年生は、レベルがより高くなったように思います。実際に、今年はこのように1年生が2位に入賞しました。これは、コンテストを実施して以来、初めてのことです。

第3位の松本迪子さんは普段は照れ屋で、人前でしゃべることが必ずしも得意ではありませんが、いざとなると「やるしかない」という粘り強いところがあるように見受けられました。彼女のお友達の話によると、普段の会話ではよく中国語の単語を使って、周りを盛り上げるそうです。

入賞者のみなさん、参加者のみなさん、本当に有難うございました。

(鄭 高咏)

### 中国語部門 (現代中国学部)

第17回外国語コンテスト中国語部門(現中)は、2011年11月30日(水)16:40から、課題文暗唱部門12名、自由課題部門2名の合計14名が参加して行われました。審査は薛鳴先生、李志傑先生、安部の3名で行いましたが、今回は昨年と比べ参加者が少なく、特に自由部門は2名の参加ということで、次回に課題を残す結果となりました。今後は早めに動いて自由部門の参加者を増やしたいと思います。

課題文暗唱部門(1年生のみ)は例年同様の参加者があり、課題文をしっかりと暗唱しているばかりでなく、その表現方法にもそれぞれ工夫が見られ、1年生の中国語に対する熱い思いが伝わってきて、本当に感心させられました。2年生以上の学生の奮起に大いに期待したいと思います。

課題部門は、「愚公移山」という中国では大変有名な故事を暗誦してもらいました。内容は、中国に昔愚公という老人がいて、家の前にある山が邪魔なので、家族と相談の上これを他に移すことにしました。これを見た人が、「年寄りが山を移せるわけがない」とからかうと、愚公は「私が死んでも子や孫が後を継ぐだろう。強い信念があれば山でも移すことができる」といって山を掘り続けます。これを知った天の神が感動し、山を移してあげたというお話です。この話は、毛沢東が取り上げたことにより、中国では様々な状況でよく用いられたという経緯があるととても有名な話ですが、出場者はこの寓話の意味をしっかりと理解し、

単に暗唱するばかりでなく、愚公の固い決心を表情豊かに表現してくれました。

厳正な審査の結果、次の4名が入賞しました。

- 1位 11C8133 安部 百慧
- 2位 11C8015 白石 香織
- 3位 11C8003 持田 三琴
- 11C8091 箕浦 夕貴

次に自由部門ですが、今回は2名の参加でしたので、1位のみ之选出となりました。

- 1位 10C8130 加賀 悟

加賀君は、「我和劉老師(私と劉先生)」というテーマで、春学期に参加した中国現地プログラムで出会った中国人教員である劉先生との、日常の交流に加え、さらに中国語チャットQQを使って交流することにより、お互いに理解を深めることができ、また中国語や中国に対する興味がより強くなったという話をしてくれました。話としては少し長かったのですが、なかなか説得力のある語り口で良かったと思います。

(安部 悟)

### 韓国・朝鮮語の部

第17回外国語コンテストは名古屋校舎では最後のコンテストとなるという一種の感慨を含みながら、「韓国・朝鮮語」の部の本選は2011.11.28日(月)16時40分から実施された。参加学生は20名。今回も、全1年生よりは、やる気のある2年生以上の選択科目受講生(2年「発展」、3年以上「演習」)を中心に、準備および選抜をなした。そのため参加者学生は20名と少数ではあっても、いわば精鋭揃いであって、今回も審査員を悩ませた。かかる激しい競争のなかで、受賞者は以下の3名となった。

- 第1位 10C8045 本山 由奈
- 第2位 08M3523 加藤 美奈
- 第3位 09M3657 嶋崎 真悠

審査員は、多忙な非常勤講師の尹先生に無理にお願いし、常石と二人が担当した。特に記しておきたいのは、ほとんどの参加者が入賞者に負けていない実力の持ち主であり、その力をいかに発揮してくれたという点である。

(常石 希望)



## 日本語部門

外国語コンテスト「日本語部門」は、日本語を母語としない者を対象に開かれています。毎年「留学生の見た日本」というテーマで、自らの体験を盛り込み、身近な出来事から意見や考えを述べることが課題です。

法・経・現中三学部の1年次の留学生は、毎年全員このスピーチに取り組んでいます。50名近くにもなりますから1年生だけの予選を行います。予選は16名ずつに分かれたクラスごとに行い、それぞれ3名の代表者が選ばれ、計9名が本選に進みました。2年次以上の留学生は、予選を経ず、直接本選に出場できますが、今回は残念ながら参加がありませんでした。次回の上級生諸君の参加を期待します。

2011年11月22日の本選では、日本語科目担当教員3名（架谷・鈴木・梅田）、学生審査員2名（留学生・日本人学生ともにスピーチ入賞経験者）、聴衆約50名によって審査が行われ、以下3名が入賞しました。

1位 法学部 11J1393 林 益「矛盾した国」

2位 経営学部 11M3661 張森森

「いきいきしている桜」

3位 現代中国学部 11C8190 李 佳

「日本のアニメ文化」（敬称略）

「留学生の見た日本」という単一のテーマですが、発表者はそれぞれ独自の着眼点から原稿を書き起こしました。トイレから見た日本の文化、迷惑をかけないことを重んじる日本人、様々な年代の人がそれぞれの理由で資格試験にチャレンジする姿…彼らが題材とする日本人は様々ですが、どれも現代日本社会の事実の一部を切り取ったものです。スピーチの内容が素晴らしかった分、技術面においては、若干の物足りなさが残りました。もっと練習すればもっと良くなるはずだと思われる発表もあり、その点はまだ満点とは言えません。さらなる高みを目指してほしいと思います。

ともあれ、日本語部門に参加できない数多くの日本語を母語とする学生には、ぜひ一人の聴衆として留学生の声を聞きに来ほしいと思います。きっと新しい発見があるはずです。

（梅田 康子）

## 外国語コンテスト 入賞作

### Voter turnout of younger generation

09J1244 Chisa Harada

Recently in Japan, a low voter turnout of younger generation is a serious problem. I belong to a seminar of political science. Our group studies theory of this problem and discusses what we should do to increase the voter turnout. Today, I explain the present situations of election, the reasons for not voting and how we should deal with the problem.

Present voter turnout is in a serious situation. Let me tell you about the result in Aichi prefectural governor election held on February 6 this year. In the election, the whole turnout was 53%. The highest was from late 60s to early 70s which accounted for 70%. On the contrary, the lowest was the younger generation of early 20s which accounted for only 34%. This low voter turnout of younger generation is not an exceptional case. Other local elections such as mayoral and municipal elections or national election result in just the same. The problem of voter turnout among younger generation happens in all the elections.

Why don't some young people go to vote? There are some reasons. First, some people don't go voting just because they don't feel like voting without reason, and they give their private business priority over election. That is, their sense of duty is faded. Second, they distrust politics. They think that whoever may be elected, the government won't change. Also they tend to think there are no suitable candidates and political parties. Young people who feel so are rather interested in politics, but they just don't go to vote. Third, some people tend to think that there is no need to use their vote. Most of the time, candidates and political parties that win the elections are decided by the organized votes, so they think their personal vote is unlikely to reflect the result of an election. In short, they have a feeling of alienation to politics. Finally, some people are not interested in politics. I think this is the most serious reason to explain why young people don't go to vote.

Why aren't young people interested in politics and elections? They are losing interest in politics because they don't feel policies are linked to their lives directly and politics is a familiar problem. According to one research on a general election, a voter turnout of early 20s was about 40%. But in 10 years, when they become early 30s, the figure increases to 55%. This figure shows that the interest in politics increases as they grow older. Most people in their 30s have a regular occupation. They are married and have a child or two. So political affairs such as child care allowance and a free high school education bill are linked directly to their lives. Moreover, issues on pensions and medical care are major concerns for elderly people, because these issues are particularly important for them. On the other hand, some early 20s are university students, who don't have a regular occupation and don't get married. So people in their 20s don't feel politics as a real problem. On the other side, statesmen are also moving away from young people. They cannot win elections with the policies for young people, because they don't get many votes from them. Not going to vote causes a vicious circle.

How should we improve this situation? As I said, they are getting interested in politics as they grow older, so the low voter turnout of the 20s may be inevitable. But we should think in the other way round. It is impossible to persuade young generation who has no interest in politics to go to vote. So, to begin with, we should make them interested in it. We can do it right now. First, let's learn about politics and situations in Japan. If you feel it is too difficult to keep up with social topics, then you can at least watch news in the morning and at night. The more you know about what is happening in your society, the more you will worry about it. Next, try to have your own opinion. It is important to think about the merits and demerits of policies, and how they affect your lives. Even if policies are not linked to you directly, it will be related to you in the future, because policies are not changed in a short time. Acquiring knowledge on politics will increase your interest in election. You need to be aware that you are the holders of rights.

## 我和刘老师

10C8130 加贺悟

我从今年三月开始到七月，去中国天津留学了四个月。

四个月的时间虽然很短，但因每天的生活环境和汉语课，还有和中国人的交流，我的汉语水平也提高了很多。

我的中国的老师给我留下了极其深刻的印象。刘老师是南开大学年轻的女教员，在我们留学期间，她担任我们班的汉语课。在课外对我们也十分照顾。

我和刘老师在课下还频繁地进行一些关于恋爱话题的交流。

比如说，我对她讲自己的恋爱看法，她也多次给我讲她自己的恋爱故事。

我到天津后，很快就开始使用 QQ 了。因此和刘老师之间也经常用 QQ 进行联系。

刘老师有什么不愉快，也会通过 QQ 告诉我。我感到我得到了刘老师深深的信任。

在留学就要结束的前夕，在刘老师上的最后一次课的那天，我不知为什么觉察到刘老师表情从早上起就一直很伤感。

在最后的课上，当一位同学向刘老师宣读感谢信和检讨信的瞬间，刘老师就开始落泪了。那些泪水好像将她那天忍住的所有伤感 全都宣泄出来了。

那天刘老师也对我们道了道别辞。

她说“六月份和七月份是道别之月。老师必须目送自己的学生毕业。在和你们即将离别的日子，就在昨天我又和男朋友分手了，所以我今天分外难受。

老师还给我们班每位同学写了赠别词。

我被老师这样对待学生的态度震撼了。

和刘老师的相识提高了我回国后学习汉语的兴致，也激起了我参加这次汉语演讲比赛的信心我和刘老师的相遇成为我天津留学最珍贵的记忆和财产。

## 「나와사람」

10C8045 모토야마 유나 本山 由奈

저는 어렸을때, 극도의 오염증이 있어서, 사람이랑 대화를 하는것이 서투른 아이였어요. 그리고, 사람이랑 말할것을 싫어하기도 했습니다. 그래서, 저의 부모는 그런저를 걱정해서, 여러가지 해줬습니다. 자주 공원에가서, 모르는 아이들한테도 말을걸어서 같이 놀게하고, 혼자서 심부름도 가게했어요.

그렇게해서, 조금씩 사람들과 관계를 갖게되면서 사람들이랑 말을하면서, 고통스러운것이 없어졌어요. 그러면서 중학생이되고, 친구들이 조금씩 생겼습니다. 그러나, 저는 조금 홀가분하게 하고있는 곳이 있어, 친구들에게 맞추거나 언제나 어디서나 함께있는 것을 그다지 좋아하지 않았으므로, 혼자 행동하는 것이 마음에 안든 친구들은 나를 왕따의 대상으로 한 것입니다. 그래서, 저는 또 사람이랑 말을하는것을 싫어하게 되면서, 혼자있는 것이 태연해져갔습니다.

고등학생이돼서, 어떤 한 친구를 만나, 저는 또 다시 바뀔수있었던 것입니다. 그리고, 친구도 늘어나, 가족에게도 말할수없는 상담을서로 말하거나 하면서, 생활을해가는 동안에 장래의 꿈도 생겼습니다. 그 꿈은, 많은 사람과 이야기를 할수있는곳에 오르는 것입니다. 그럴려면, 여러가지 언어를 알거나, 조금이라도 많은 나라에 대해서 알면서, 누군가가 나한테 상담을하거나, 버팀목에 친숙해지는 것 같은 사람이 되는 것입니다. 그렇기때문에, 나는 이렇게 지금 이야기 할수있는것을 자랑으로 생각하면서, 더욱 열심히 해가고 싶습니다.

## 矛盾した国

11J1393 林 益

しばしば日本は伝統と現代を融和した国と呼ばれます。日本で生活している皆さんもそうに感じていませんか。ビルのとなりには寺が軒を連ね、浴衣を着る人々が携帯を手にもメールを打つ姿がよく見られます。すでに半年ほど日本に住んでいる私は、日本のそのような矛盾した特徴を見たり感じたりしました。さて、たぶん私よりもっと長く日本に暮らしている皆さんにとって、こんなこと見慣れてしまっただけで不思議に思わないのではないのでしょうか。あまりたいしたことではないのではないのでしょうか。伝統や習慣のように昔からあ

るものは、どの国にもありますよね。しかし、これらは日本のただの外見の矛盾に過ぎません。日本で暮らすうちに私は、外見の矛盾だけでなく日本人の内面の矛盾にも気づいてきました。

集団主義が日本人に深く影響を与えていることはよく言われています。「多くの日本人の学生にとって、一人で食堂で食事をする事さへ恥ずかしいと思っている。」中国で、日本語の先生からそんなことを聞きました。あの時は、なんか不思議だと思いましたが、日本に来てからは徐々に分かってきました。新入生にとって、一番ほしいのは友達です。私はある日本人の友達に自分の知り合いを紹介すると、意外にも彼は「よし、また友達が増えた」と喜びを口にしました。なるほど、日本人にとって、友達はそこまで重要なのですね。

しかしここで私は、ある矛盾に気づきました。仲間に入りたいと言っている日本人ですが、まるで本のカバーのように、彼らは自分にカバーを付けて他人と付き合っています。春学期の入門演習で先生は、自分のパートナーを紹介する宿題を私たちに出しました。お互いを知るために、授業後二人で自己紹介しました。お互い分かり合うために、私はどんどん自分の経験や性格などを詳しく彼に教えてあげました。しかし、彼はただ自分の名前や出身地を話すだけで、彼自身がいったいどんな性格で、どんなことに興味があるのか話してくれませんでした。それはグループワークの時も同じです。4人もいるのに誰も自分の意見をださなくて、うまく進みませんでした。日本人は自分を守るため、簡単に自分の考え方を他人に知られたくないのでしょうか。

もう一つの矛盾は、友達がほしいと言っている日本人は、いつも他人と距離を保っていることです。初めて学校のバスに乗った時、不思議な場面を見ました。席が空いているのに、隣に立っている学生は気づかなかったようにそのままずっと立っています。「たぶん近いので座る必要がないのかな」と思いましたが、もっと不思議なことが起きました。席はばらばら空いているのに、ある日本人の学生は「席が空いてないなあ」と友達に言ったのです。今ではその疑問は解決しました。日本人は自分のスペースを大切にするので、人に近づくと、ほかの人に迷惑をかけ、自分も邪魔されるわけです。迷惑をかけないことは、すでに暗黙のルールとして、日本社会の隅々まで浸透しています。ですから、中国人は仲良くなりやすいのに比べ、日本人はどのように親しくても、一定の距離を保っているのではないのでしょうか。

集団主義の中にも強い個人主義が含まれたという矛盾は日本の特徴なのではないのでしょうか。



「表紙のアート階段～上まで登って振り返ると、まったく普通の階段！」

## 2012 年度 外国語検定試験奨励金について

各種語学検定試験（英語検定・ドイツ語検定・フランス語検定等）の受験合格者に対して奨励金（図書カード）を交付しています。

<< 詳細な基準については下記まで問い合わせてください >>

名古屋語学教育研究室（厚生棟 4F）  
豊 橋語学教育研究室（3号館 1F）

応募締切 2013 年 1 月 31 日（木）  
応募締切 2013 年 2 月 14 日（木）

### 〈編集後記〉

ささしま新名古屋校舎の開校により、LL ニュースと語研ニュースが統合、語学学習情報誌 Lingua として生まれ変わりました。第 1 号はいかがでしたか。ボリュームアップして、かなりの読み応えになったのではと思います。Lingua は、これまで以上に学生の声を反映した誌面にしたいと考えています。その第一歩として、まず Lingua のロゴデザインを公募しました。表紙のタイトルをもう一度ご覧ください。経営学部藤井珠美さんの作品です。みなさんの知りたいこと、特集のリクエストなど Lingua にどしどしお寄せください。編集委員も増え、さらにパワーアップしていく Lingua にご期待ください。(U)